

平成28年度 教育・研究活動報告書

取組成果のご報告

For all the students
～すべての学生生徒のために～



建学の綱領

- 一 学徒の品性を陶冶し眞の国民としての教養を啓培する
- 一 宇宙の眞理を探求しこれを実生活に応用して社会に貢献する
- 一 人類至高の精神、自由平和信愛を基調として世界に雄飛する人材を育成する

全国トップクラスの教育拠点を目指して

～入学志願者11年連続増加と就職率7年連続上昇を経て～

本学園の運営につきましては、平素より格別のご理解とご支援をいただき深く感謝申し上げます。

さて、政府は、「教育・人材力の抜本強化」を成長戦略の一つの柱として位置づけ、産学連携による実践的教育の実施や、数理・データサイエンス教育の強化、工学教育改革等を実行することを明示しています。私学については、より一層の「教育改革」と「財政的自立」が求められています。現在進行している学齢人口の減少と相俟って、学校経営の環境はいつそう厳しくなり、教育改革と経営改革の断行を迫られている状況と言えます。

このような環境の中で、本学園は早期から学校改革の重要性を認識し、10数年余にわたって多様な試みを行ってきました。これらの取組は、本報告書の主要な成果としてまとめているとおりに相応の成果を創出し、「11年連続入学志願者の増加、7年連続就職率の上昇、3設置校全ての財政安定化」につながっています。

もとより、私たちはこの現状に満足することなくいつその改革・改善を推し進め、「全国トップクラスの教育拠点」を形成し、社会の変革に適応できる強い人材の育成を目指してまいります。

この教育・研究活動報告書は、学生・生徒・保護者の皆様、卒業生、そして学校運営にご支援をいただく企業・地域の皆様に、私どもの教育・研究・経営及び財務の諸活動の取組とその成果について具にご説明し、いつそう本学園をご活用いただくことを目的としています。

おって、この報告書を通じた関係の皆様と本学園の双方向のやりとりは、私どもが諸活動を磨き高めるには欠くことのできない貴重な機会であると存じます。どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

平成29年6月1日

福岡工業大学・同短期大学部

学 長 **下村 輝夫**

INDEX

I.ごあいさつ	1
II.主要な取組成果	
1. 入学志願者・入学者の状況	3
2. 教育力の発揮	5
3. 研究の高度化	7
4. 就職力の強化	9
5. 大学院の取組	11
6. 短期大学部の取組	13
7. 附属城東高校の取組	15
8. 経営力強化の取組	17
9. 学園運営に対する外部評価	19
III.学園のプロフィール	
1. マスタープランの概要	21
2. 学園の沿革	23
3. キャンパスの概要	25
IV.教育改善・研究高度化・キャリア教育・就活支援の具体的取組状況	
1. 教育改善の取組	27
2. ラーニングサポートの取組	29
3. 研究高度化の取組	31
4. キャリア教育・就活支援の取組	33
5. 産業界・他大学・地域社会連携の取組	35
6. グローバル化の取組	37
7. キャンパスライフサポートの取組	39
V.バックデータ集	41

1. 入学志願者・入学者の状況

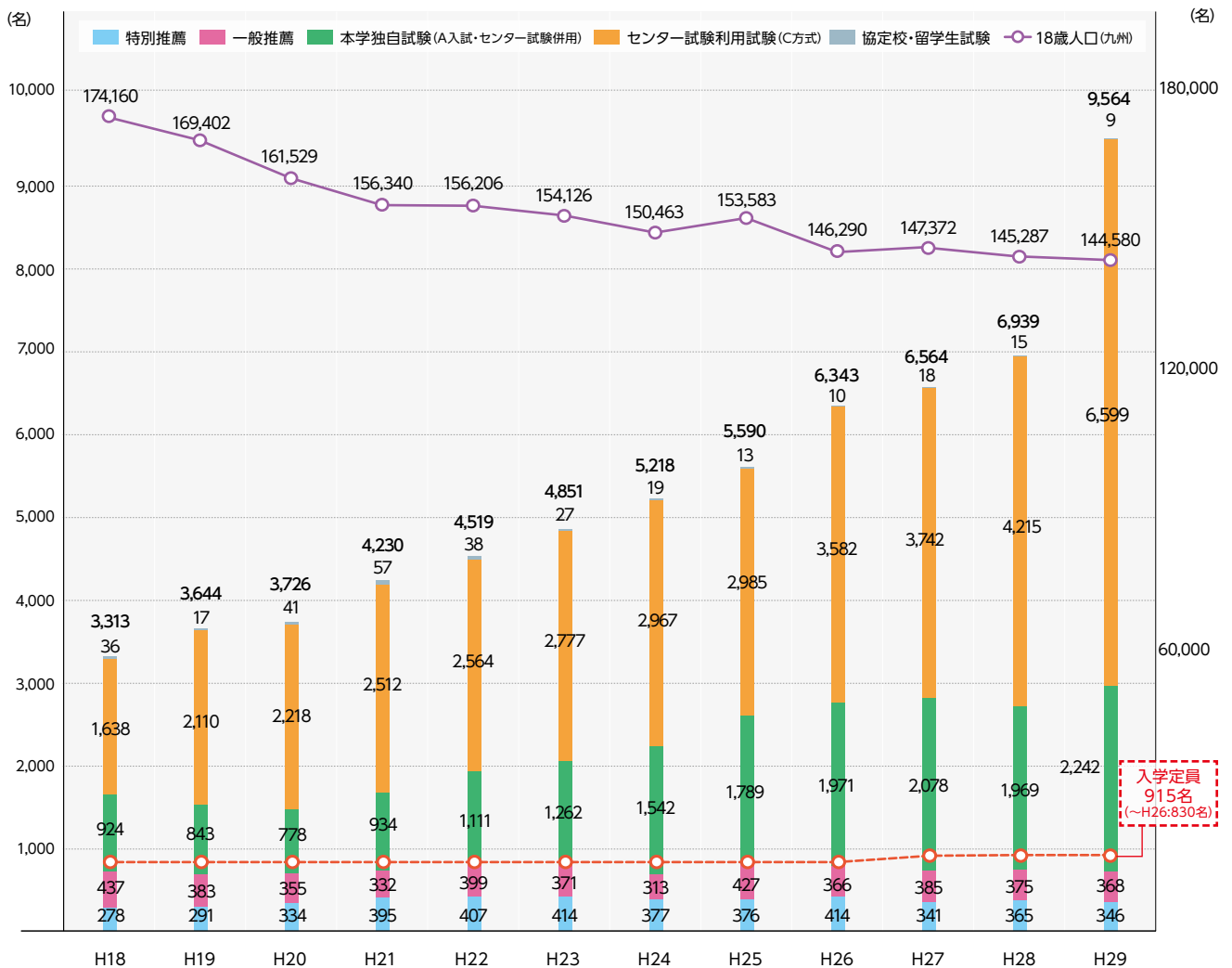
大学は、11年連続で志願者が増加しました。
 入学者も安定的に確保しています。

九州・山口地区の同系統他大学が苦戦を強いられる中で、本学は順調に入学志願者を増加させています。これに伴い、毎年の入学者も所定人員を安定的に確保しています。

一般入試の入学志願者が増加し志願者総数は過去最高、入学志願倍率は10倍に到達

平成18年度は3,313名だった入学志願者は、平成29年度入試では9,564名となり過去最高、入試志願倍率は10.5倍に達しました。また、女子入学者は、前年度と比較して32%増加(平成18年度の約2倍に増加)しました。

■大学の入試種別ごとの志願者推移



▶ 「11年連続の志願者増加」は、全国の私立大学(増加当初の志願者が1,000名以上)では本学のみであり、他大学等から注目されています。

高校・大学の教育活動連携を推進、高校の教育ニーズに積極的に対応

高校・大学連携の重要性から、サイエンスパートナーシッププログラム(SPP)として理科実験出前授業、教員免許更新講習、福岡県工業高校クラブ連盟主催の生徒研究発表会等を積極的に開催・サポートしました。また、他大学と福岡県内の高校と共に「高大接続」に関する研究会を継続的に開催しました。

■ 情報工学部と附属城東高校との高大連携課外授業(i-STEM教育)



ゲームプログラミング



NXCIによるしご制御



科学実験

■ その他の高校・大学連携の活動



理科実験出前授業



生徒研究発表会



高大接続システム勉強会

- ▶ 高校教育と大学教育の円滑な接続が重要であることから、大学と高校との交流を重視。交流を通じた双方の教育内容の理解と教育活動の活性化を目的として、高大教育接続研究会を開催しています。この研究会には、中村学園大学、西南学院大学と県内の高校が参加しました。

教育・研究活動の情報公表を積極化、学校運営の「見える化」を促進

受験生の不安解消、高校生や保護者からの信頼向上に向けて、オープンキャンパス、入学相談・説明会等の募集活動で、教育・研究活動の取組状況や成果を積極的に公表しました。また、中学生・高校生対象の模擬講義、ものづくり学習会を行うとともに、大学授業や研究室の公開を増やすなど、大学での学びを体験する機会を拡大しました。



保護者説明会



入試相談会



模擬講義



研究室公開(生命環境科学科)



学科紹介体験イベント(情報工学科)



学科紹介体験イベント(社会環境学科)

2. 教育力の発揮

教育改革の取組が高く評価され、国等の支援事業に数多く採択されました。

本学の教育改善の取組は高く評価され、国等の選定・採択難易度の高い支援事業に数多く採択されました。これらの実績は、過年度から大学ランキング等で全国屈指の水準と評価されています。教育力の向上は、学会等の研究発表で得る高評価にも繋がっています。

文部科学省大学支援事業採択ランキングで全国私大3位

文部科学省大学支援事業採択ランキング「サンデー毎日(2月5日号)」で、昨年の全国私大5位から3位に上昇しました。支援事業に採択されることで研究活動が充実し、それが教育に波及して学生の学習・研究意欲の向上に繋がっています。

■文部科学省大学支援事業採択ランキング「サンデー毎日(2月5日号)」

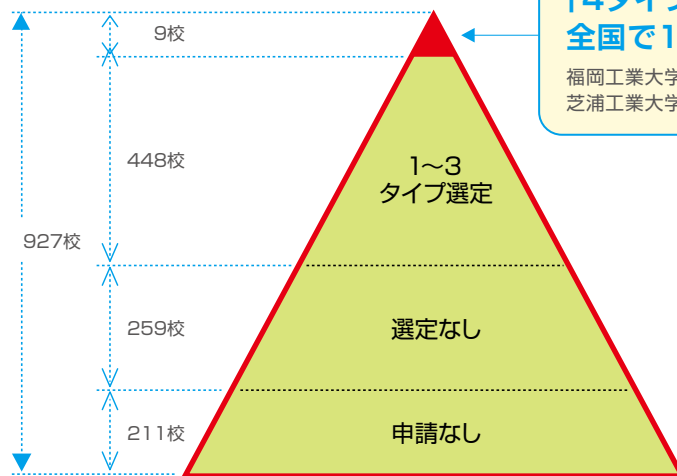
私立大学			採択件数合計	スーパーグローバル大学創成支援	グローバル人材育成推進事業	大学の世界展開力強化事業	地(知)の拠点大学による地方創生推進事業	大学教育再生加速プログラム	大学間連携共同教育推進事業	産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業	情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業	成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成	私立大学等改革総合支援事業			
													タイプ1 (教育の質的転換)	タイプ2 (地域発展)	タイプ3 (産業界・他大学等との連携)	タイプ4 (グローバル化)
順位	大学名	所在地														
1	芝浦工業大	東京	9	○	○		○	○		○			○	○	○	○
2	金沢工業大	石川	8				○	○	○	○			○	○	○	○
3	上智大	東京	7	○	○	○			○				○		○	○
	関西学院大	兵庫	7	○	○	○			○				○		○	○
	福岡工業大	福岡	7					○	○	○			○	○	○	○
6	共愛学園前橋国際大	群馬	6		○		○	○					○	○		○
	創価大	東京	6	○	○			○	○	○						○
	東京電機大	東京	6					○		○		○	○	○	○	
	早稲田大	東京	6	○	○	○			○						○	○
	京都外国語大	京都	6					○	○	○			○	○		○
	関西大	大阪	6			○		○	○				○		○	○
12	千歳科学技術大	北海道	5				○	○	○	○			○			
	富山国際大	富山	5				○			○			○	○		○
	日本福祉大	愛知	5				○	○		○			○	○		
	立命館大	京都	5	○	○	○									○	○
	関西国際大	兵庫	5					○	○				○	○		○
	広島修道大	広島	5				○			○			○	○		○
	四国大	徳島	5				○			○			○	○	○	
	西九州大	佐賀	5				○		○	○			○	○		
	立命館アジア太平洋大	大分	5	○	○	○							○			○
	21	東日本国際大	福島	4				○	○	○				○		
明治大		東京	4	○	○	○				○			-	-	-	-
青山学院大		東京	4						○	○					○	○
慶應義塾大		東京	4	○		○					○	○	-	-	-	-

私立大学等改革総合支援事業は、4タイプ全選定(全国927校中9校)

この支援事業は、文部科学省と日本私立学校振興・共済事業団が一体となり、積極的に学校改革に取り組む大学等を支援するものです。当年度は、①教育の質的転換、②地域発展、③産業界・他大学との連携、④グローバル化の4タイプに選定されました。

■全国私立大学等(大学・短大)の選定状況

全国私立大学等(927校)のうち、716校が申請を行い、その中から457校が選定を受けました。4タイプで選定されたのは、本学を含め9校とごく少数です。
 本学の4タイプ選定は平成26年度以来2度目です。
 なお、短期大学部も1タイプ(教育の質的転換)選定されました。



**「4タイプ全選定」は
全国で1%(9校)**

福岡工業大学、東北福祉大学、
芝浦工業大学、金沢工業大学他

▶ 平成28年度は、本事業の採択が申請要件となる私立学校施設整備費補助金等に3件(E棟ネットワーク整備、B棟高度ICT環境整備など)が採択され、本学の教育・研究環境の充実が大きく進展しました。

学生の研究活動も評価が高まり、学会等で数多く受賞

担当教員の指導の下、学生の正課・課外での研究活動は活発化しています。その結果、学会等での学生の発表が評価(37件)され、数多くの表彰等(学生表彰123名+15団体(前年比132%))に繋がっています。



表面技術協会九州支部「優秀学生賞」
生命環境科学科 小川毅さん(小城高校)



日本機械学会九州学生員卒業研究発表会「優秀講演賞」
情報システム工学科 宮本知佳さん(筑紫女学園高校)



生命ソフトウェア&感性工房合同シンポジウム「優秀発表賞」
情報工学科 野村康太さん(附属城東高校)



第6回河川学シンポジウム「優秀発表賞」
社会環境科学科 上野由里代さん(北九州高校)



九州大学医学系学府医科学専攻合格
生命環境科学科 井上和也さん(小倉西高校)



文部科学省主催第6回サイエンス・インカレ「コンソーシアム
奨励賞DERUKUI」 情報システム工学科 古賀穂香さん
(前列左から3人目、九州国際大学付属高校)

▶ 学会等での受賞者は、前年比148%(約1.5倍)

3. 研究の高度化

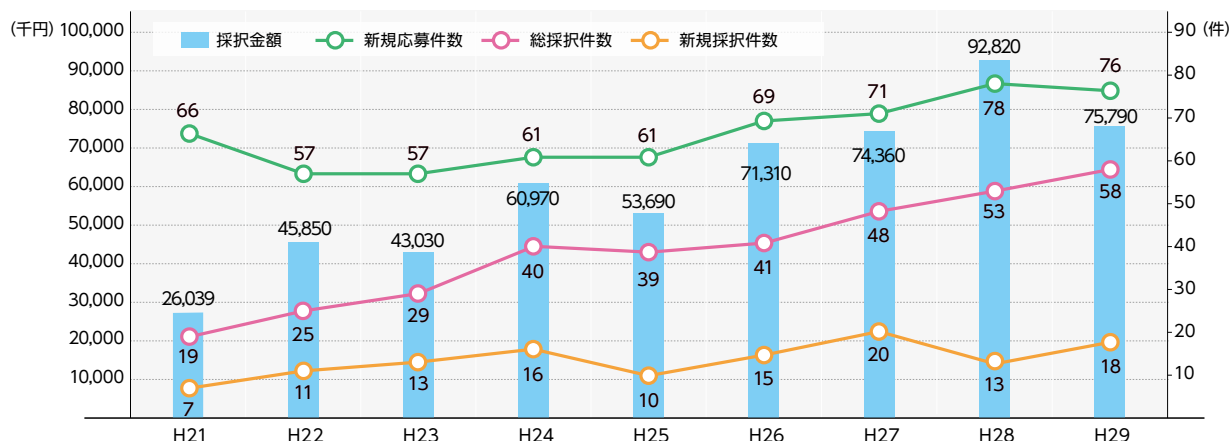
研究活動の高度化・実用化が進展し、国や企業の研究支援事業の採択は「過年度最高」となりました

研究基盤整備や研究支援体制整備を積極的に進めた結果、採択難易度の高い研究助成事業への採択が増加しています。国・地方公共団体及び外郭団体、企業等からの研究支援は拡大し、地域の研究拠点としての機能を確立しています。

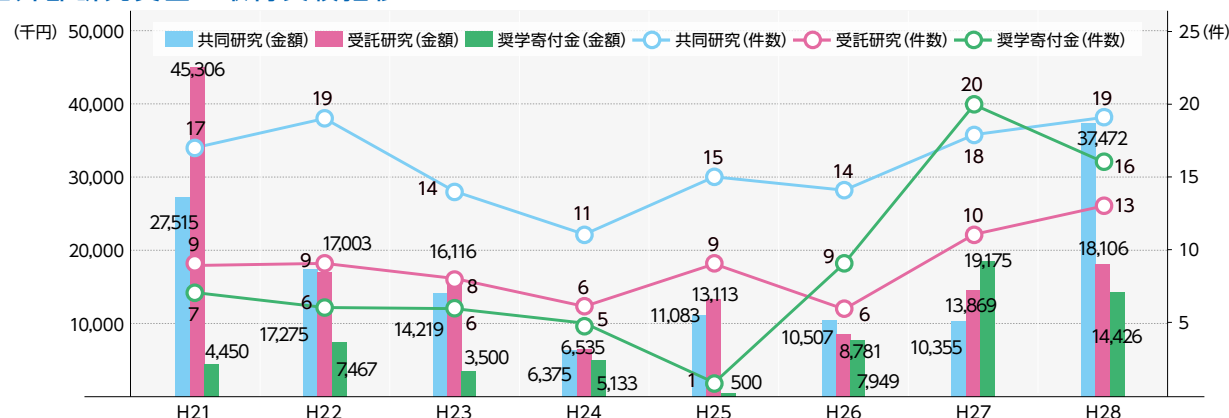
科学研究費の採択は「過年度最高」を更新、研究評価ランキングも高評価を維持

平成29年度における科学研究費採択件数(58件)は「過年度最高」です。国や企業等との共同研究費・受託研究費の採択件数も「過年度最高」となりました。

■ 科学研究費採択推移 (H21-H29、短期大学部含む)



■ 外部研究資金の取得実績推移



■ 学術誌等の研究評価ランキングでは、引き続き高評価を維持・継続

■ 国際共著論文の割合、H24-28実績

42.0%

全国国公立大学4位

〈出典：大学ランキング2018(朝日新聞出版)〉

■ 科研費新規採択率(短期大学部除く)

13.7%

全国理工系私立大学15位

〈独立行政法人日本学術振興会公表資料を集計〉

■ 教員1人当たり論文数、H24-28の総論文数/全教員数

8.56 件

25位




〈出典：大学ランキング2018(朝日新聞出版)〉

▶ 科学研究費助成事業は、多領域の学術研究を飛躍的に発展させることを目的とする競争的資金であり、独創的・先駆的な研究を助成する制度です。

企業との共同研究が活発化、企業研究費の拡大に貢献

研究スタッフ、研究装置・機器、外部連携・協力体制の充実により、研究件数・金額ともに大幅に拡大(件数48件、金額70百万円、25年度比2.8倍)しています。当年度は、自動車の開発技術等の領域で、これからの社会・産業界ニーズへの対応・実用化研究が進展しました。

■ 国(独立行政法人)や企業との主な受託研究・共同研究の例

相手先	学科	研究者	研究テーマ	主な用途
UDトラックス(株)	電子情報工学科	松木 裕二	運転者の睡眠情報に基づく居眠り運転予測に関する研究	自動車事故を抑止する、運転支援装置など 
(株)明和製作所	電気工学科	大山 和宏	30Kw標準スイッチトリラクタンス(SR)モータによるコンバート電気自動車の開発	電気自動車、電動バイク・自転車における新たな駆動システムなど 
(公財)スズキ財団	知能機械工学科	砂原 賢治	電気自動車に使用するモータ用軸受の電食防止グリースの開発	自動車、家庭用エアコン、鉄道車両、並びに工場設備におけるインバータ駆動モータなど 

▶ 情報・環境・モノづくり分野において「地方創生」にも貢献しています。

文部科学省の大型プロジェクト研究支援事業に数多く採択、公的研究の拡大に貢献

①マイクロ/ナノ金型開発センター、②ハイテクリサーチセンター、③先端計測技術研究センター並びに④物質・エネルギーデバイス研究センターの4つの研究センターが研究成果の実用化に向けて競い合っています。

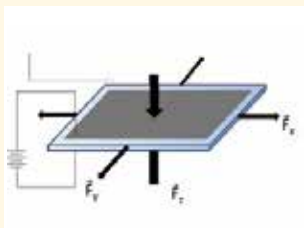
■ 文部科学省大型研究支援事業への近年の採択状況

■ 研究テーマ:物質・エネルギーデバイス研究センター整備事業

■ 採択年度:平成27年度

■ 期待される用途や効果

無機ナノシートを複合化した新開発素材によるウェアラブル端末や歩行・波力発電への展開が期待される革新的エネルギーデバイスの開発



■ 研究テーマ:先端計測技術研究センター整備事業

■ 採択年度:平成25年度

■ 期待される用途や効果

マイクロ波レーダー計測と画像センサ計測を組み合わせた4次元総合解析による津波予測システムの開発



■ 研究テーマ:ハイテクリサーチセンター整備事業

■ 採択年度:平成17年度

■ 期待される用途や効果

微生物とオゾン分解フィルターを組み合わせた排水浄化システムを開発し、酒類製造プロセス等で発生する廃棄物浄化に活用



■ 研究テーマ:次世代マイクロ/ナノ金型開発センター整備事業

■ 採択年度:平成16年度

■ 期待される用途や効果

ナノレベルの精密加工技術を開発し、自動車産業等で求められる精密金型製作に活用



4. 就職力の強化

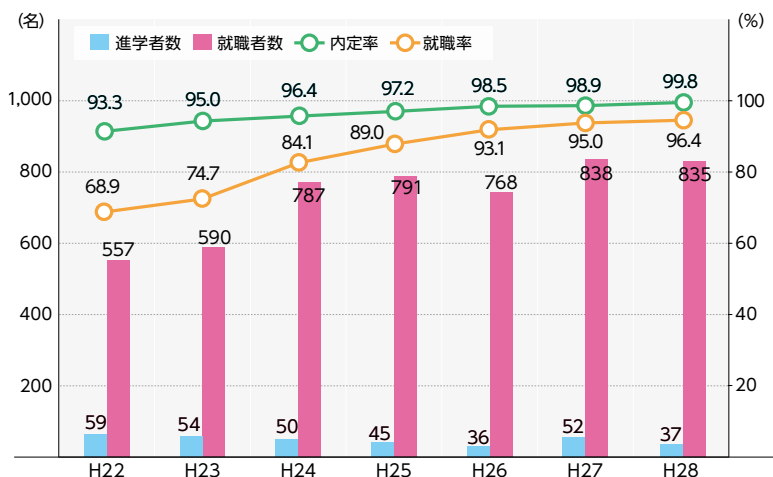
企業の強力サポートとキャリア教育・就活支援プログラムの内容充実によって、就職状況は「7年連続で向上」しました。

キャリア教育カリキュラムを体系的に整備し、入学初年度から段階的に就業力を育成しています。就活支援では、個別指導(全員面談)はもとより、東京・大阪事務所の設置や企業ネットワーク形成、就活費用援助等の様々なサポートを行っています。

就職率、実就職率などの就職関連指標は「7年連続で向上」

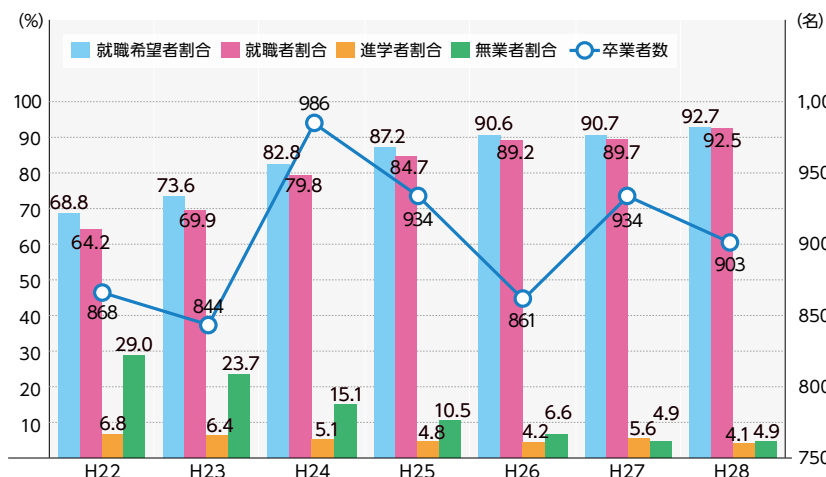
大学の就職率は、7年連続で向上しました。全国や福岡県の平均水準を上回って推移しています。就職先も、全体の約7割が上場企業や大手・中堅企業となっています。ニート・フリーター比率は、キャリア教育を入学後早期から施すことによって就業意識を高めていること等により毎年低下、当年度は近年で最低となりました。

■ 進路決定状況推移、企業規模別就職状況

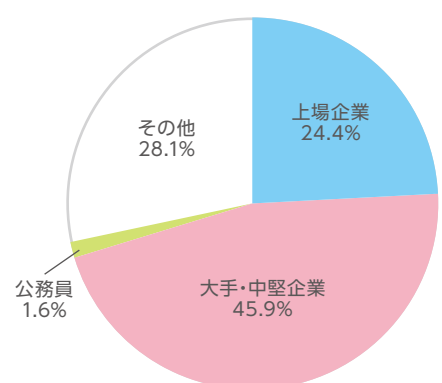


就職率 99.8%
実就職率 96.4%

■ 卒業者に対する就職希望者・就職者等割合推移



■ 規模別就職状況

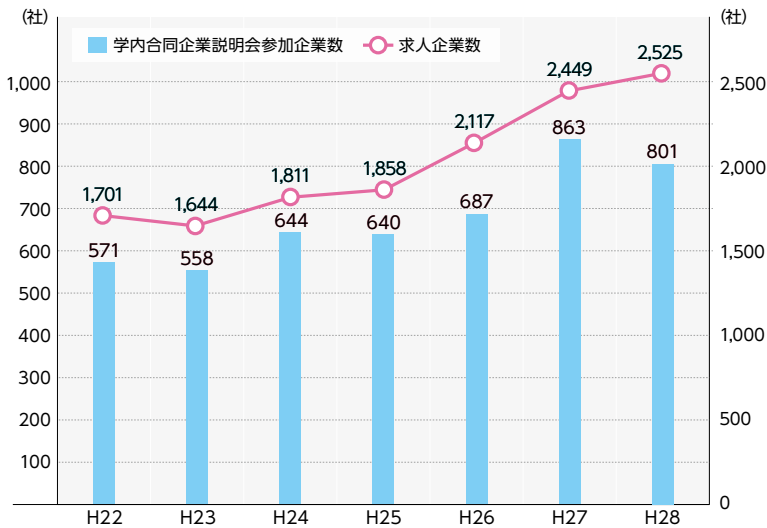


▶ 上場企業及び大手・中堅企業(資本金3億円以上または従業員数300名以上)の就職者が増加(4.3%アップ)しました。

企業の強力サポート、広範な企業ネットワークの形成

東京・大阪事務所・リエゾンオフィスに企業訪問専従の職員を配置して、関東・中京・関西・九州・山口の広範な企業ネットワークを形成しています。多くの企業から、学内合同企業説明会やOBによる企業セミナー・企業交流会への参画、本学卒業生の状況把握に関する情報提供など、多方面のサポートを得ています。

■ 学内合同企業説明会参加企業数、求人企業数



■ 学内合同企業説明会の様子



▶ 学内合同企業説明会 (約1,000社の参画) で約8割の学生が就職内定

キャリア教育・就活支援プログラムで「就業・就活力」を強力サポート

「キャリア形成」や「就業実習」等のキャリア関連授業科目の中で、自己実現のための目標設定や到達状況の確認等を行っています。その学びを確実に就職に結びつけるため、就活支援プログラムとして学科別担当教職員配置、履歴書作成や面接対策の個別指導、就活費用援助等を系統的に行いました。

■ キャリア教育プログラム



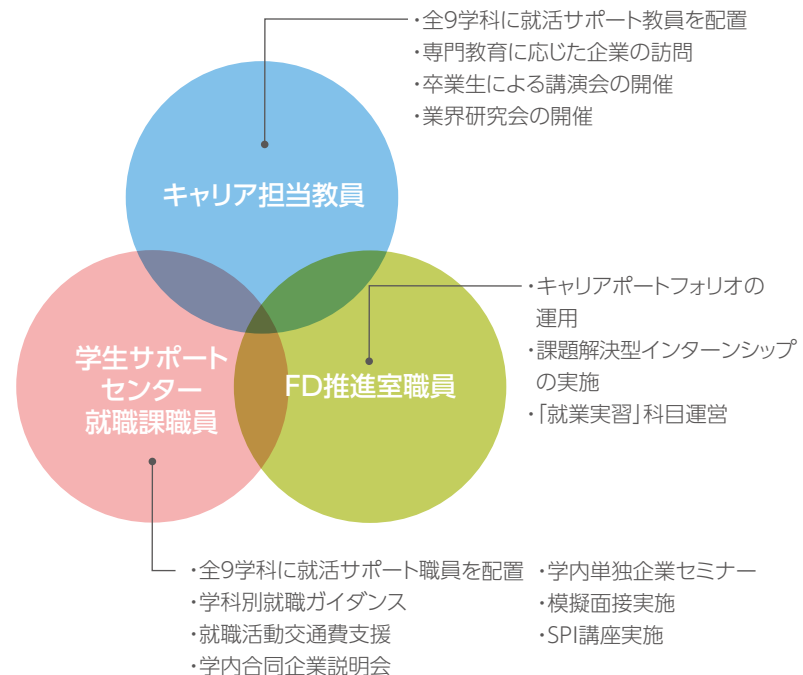
課題解決型インターンシップ(新宮町)

■ 就活支援プログラム



上場企業を目指す学生を支援する「トップアップ講座」

■ キャリア教育・就活支援プログラムの連関



▶ 「日経キャリア(有力企業847社の大学評価)」で、本学学生の「行動力」は全国で19位(九州では九州大学・九州工業大学に次いで3位)となりました。

5. 大学院の取組

大学院の研究活動はいっそう活発化。高度な研究者・職業人を育成・輩出しています。

工学研究科(修士課程・博士後期課程)と社会環境学研究科(修士課程)を設置しています。科学技術の高度化・国際化・情報化・環境調和型社会に貢献できる高度な技術者・研究者を育成しています。学生の研究活動サポートを数多く実施し、研究成果の拡大はもとより進路決定状況も良好でした。

学生の研究活動は外部から高評価、教育研究水準の高度化により進路決定状況も良好

研究指導のもとで学生の研究活動は活発化し、学生の国内外での学会発表などが高く評価されました。特に極めて採択難易度の高い日本学術振興会特別研究員にも採用されています。また、学生の研究水準の高度化により、大学院生の進路決定状況は良好でした。

■ 学会表彰等



日本学術振興会特別研究員DC2採用
博士後期課程知能情報システム専攻
横 俊孝さん(大村工業高校)と若原教授



国際会議ICEESE 2016 [Best Presenter Award]
電子情報工学専攻
安部 寛二さん(香椎工業高校)と江口教授



国際会議19th International Conference on Mechanics
Engineering and Applied Mechanics[BEST PAPER AWARD]
知能機械工学専攻 辻 祥希さん(柏陵高校)と数仲教授



平成28年度秋期フルードパワーシステム講演会
最優秀講演賞 知能機械工学専攻
西田 一矢さん(福岡工業高校)と加藤准教授



レーザー学会九州支部 学生講演会 講演発表賞
知能機械工学専攻 鐘ヶ江 カさん(祐誠高校)

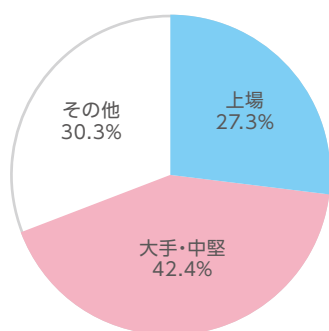


国際人工生命ロボットシンポジウム AROB 22nd 2017
[Young Author Award]
管理工学専攻 佐藤 拓広さん(嘉穂東高校)

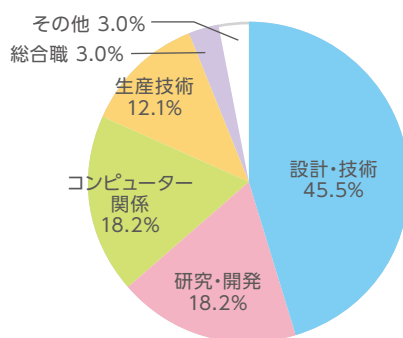
▶ 特別研究員制度とは、日本学術振興会が我が国の学術研究を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保を図るために、優れた若手研究者を支援する制度です。採用者の多くが国立大学所属で占められる中、本学からは平成21年以降9人目の採用となりました。

■ 大学院の就職状況

■ 規模別就職状況 ■



■ 職種別就職状況 ■



就職率 100.0%

実就職率 89.4%

全修了者数	52名
就職希望者数	42名
就職内定者数	42名
進学者数	5名

修学支援、研究活動のサポートを積極化

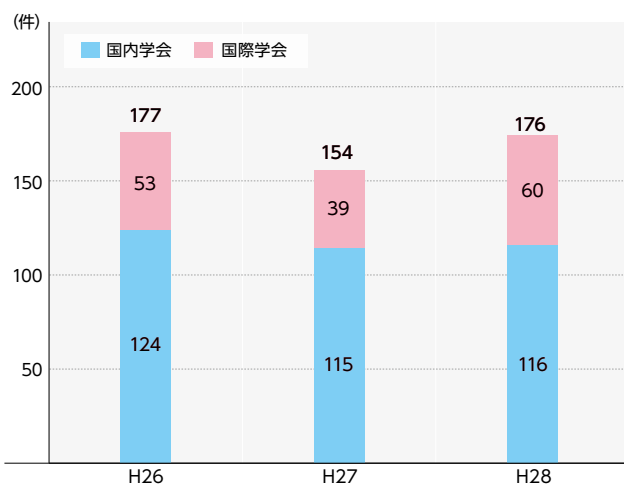
研究活動に集中し、研究成果を拡大できるよう、学部生奨励生制度・学業特待生制度・国内外学会発表時の交通費補助等の経済的支援など、多岐にわたるサポートを実施しています。

■学業優秀者奨励制度の概要

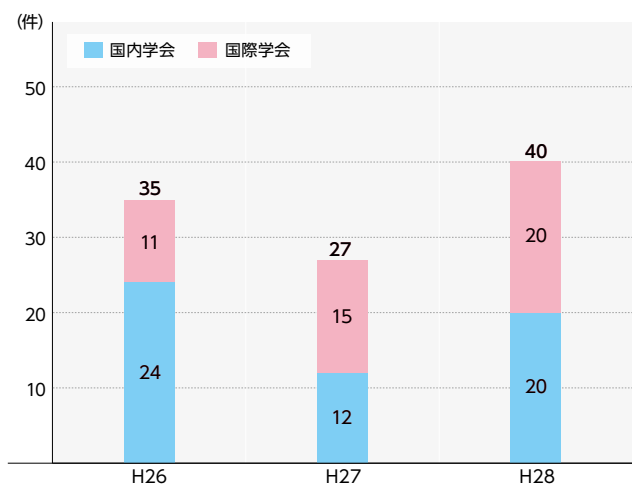
本学の優秀な学部生が、経済的な理由で大学院進学を断念することがないように大学院修士課程在籍期間に奨励金を支給する制度

採用者数：各専攻2名以内 奨励方法：毎月8万円の奨励金支給（最大24か月）

■大学院修士課程 学生学会発表推移



■大学院博士後期課程 学生学会発表推移



大学院キャリア形成プログラム、就活支援等のキャリア支援も充実

学生が、自らのキャリアについて考え行動する力を身に付けるために、様々な就職支援の取組を行っています。また、教員による企業訪問や研究指導者帯同による工場見学などを積極的に行い、企業との研究・開発交流を深めています。

■キャリア関連のサポート内容

・STAR PROGRAM

シリコンバレーで学ぶ大学院キャリア形成プログラム（約10日間）。“グローバルマインド”を身に付けた職業人を育てるプログラム。

・優秀な学生に対する大学院トップアップ就職講座の実施（年間12回開講）

・優良企業への研究指導者帯同型工場見学の実施



▶ 過去3年間の主な就職先一覧：SONY、富士通、東芝、IHI検査計測、ケーヒン、ダイショー、大阪製鐵、住金日鉄鋼板、日立製作所、三菱電機インフォメーションネットワーク、ゼンリン、富士通エフサス、宇宙技術開発、ミライト、ニチバンメディカル、三洋工業、リンテック、JFEシステムズ、ジャムコ、ジャトコ、古河電気工業、トヨタ車体研究所、西部電気工業、西部技研、IDEC ほか

6. 短期大学の取組

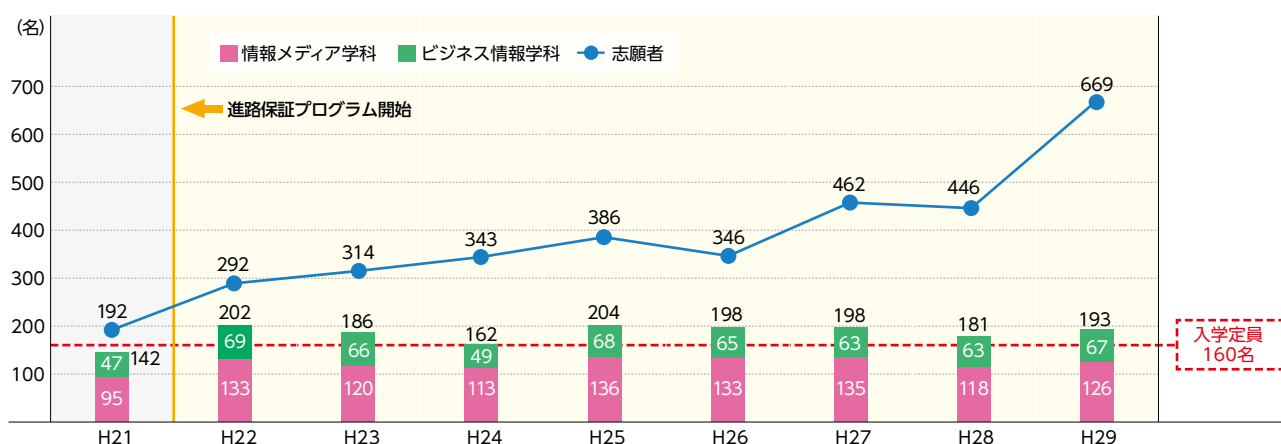
短期大学の進路決定状況は引き続き良好。入学志願者は大幅な増加となり、入学者の確保も安定しています。

学生一人ひとりに、教職員一人ひとりが、「親身になって」「親代わりに」「厳しく」関わっています。その教育の考え方や学生の成長が企業や地域等から評価され、進路決定の良好さや安定的な入学者の確保につながりました。

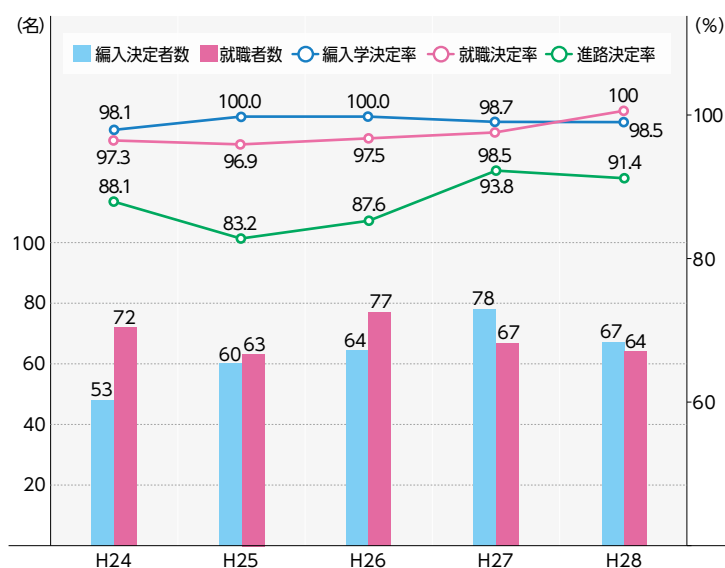
入学志願倍率は定員の約4.2倍を確保、進路決定率は91.4%の高水準を維持

平成29年度入試の入学志願倍率は約4.2倍（平成28年度比50%増）、入学者数も8年連続で定員を上回って推移しています。全国の短期大学の約7割が定員割れとなる中で健闘しています。また、進路の状況も就職、編入学ともに良好な水準を維持しています。

■ 志願者・入学者推移



■ 進路決定状況推移



編入学決定率 **98.5%**
就職率 **100.0%**
進路決定率 **91.4%**

	H24	H25	H26	H27	H28
卒業者数	151	149	169	162	162
編入決定者数	53	60	64	78	67
就職者数	72	63	77	67	64
編入学決定率	98.1%	100.0%	100.0%	98.7%	98.5%
就職決定率	97.3%	96.9%	97.5%	98.5%	100.0%
進路決定率	88.1%	83.2%	87.6%	93.8%	91.4%

▶ 平成28年度編入学合格者数(延べ数): 佐賀大学1名、宮崎大学1名、鹿児島大学4名、琉球大学1名、高知大学1名、島根大学1名、札幌市立大学1名、徳島工業高等専門学校1名、福岡工業大学47名、その他私立大学20名

最先端の教育環境のもとで、学習プログラムをいっそう充実

学生一人ひとりの目標に合わせた「プロジェクト学習」と「ドリカム学習」を開発しています。それらが最先端の教育環境で行われていることが評価され、入学志願者・入学者の安定的な確保に繋がっています。

■ プロジェクト学習 (情報メディア学科)

将来の目標に合わせてコースを選択できるプロジェクト学習は、講義と演習を通して、実践的な知識が身につく学習スタイルです。7つのコースから選ぶことができます。

[選択できる7つのコース]

- ① ITエンジニア
- ② デジタルゲーム
- ③ CG・映像・サウンド
- ④ Webプログラミング
- ⑤ ロボット
- ⑥ Webデザイン
- ⑦ インテリア・CAD

■ ドリカム学習 (ビジネス情報学科)

学生自身が、5つのフィールドを自由に組み合わせる専門性を身につけます。それぞれの学生の習熟度に応じた教育体制で授業に対する理解度をより高めています。

[自由に組み合わせできる5つの分野]

- ① 簿記・会計
- ② 秘書実務
- ③ 医療事務
- ④ 情報活用
- ⑤ メディア・CG



プロジェクト学習の様子



ドリカム学習 専門セミナーII発表会



秘書検定準1級に合格した
ビジネス情報学科 岸 麗花さん(筑紫高校)と吉原准教授

進路保証プログラムの取組が「編入学試験合格」「就職決定」に大きく貢献

進路保証プログラムは、2年間の進路別学習プログラムであり、この取組によって進路決定率の向上を図っています。学生一人ひとりの学習・学生生活に深く関わり、確実に学力・意欲・社会性を向上させ、「目指す進路の実現」を図りました。

■ 編入学教育プログラム

英語、数学、物理、小論文などの早朝集中課外講座、個別添削指導、外部試験(TOEICなど)活用など

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
国公立大学(理系・文系)プログラム	基礎講座(物理・数学・英語)	正規科目 先取り履修	志望校別 編入対策講座(物理・数学・専門・英語・TOEIC)	弱点強化講座(編入先別)
福岡工業大学プログラム	基礎講座	編入対策講座(学科毎)	工学部 科目等履修生 情報工学部・社会環境学部 科目等履修生	直前対策講座(学科毎) 弱点強化講座(学科毎)
私立大学(理系・文系)プログラム	基礎講座	志望校選択ガイダンス	直前対策講座(志望校別)	

■ 就職教育プログラム

希望職種別キャリア教育、ゼミ単位の特別支援、就職に有用な資格取得支援など

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
共通プログラム	業界研究	履歴書添削・面接の指導 能力適性検査(SPI)対策	検定対策講座	卒業研究
ビジネス系プログラム		日商簿記3級 ITパスポート 秘書検定3級 医療事務3級 取得	日商簿記2級 秘書検定2級 取得	日商簿記1級 秘書検定準1級 取得 基本情報技術者
IT系・メディア系プログラム		ITパスポート取得	基本情報技術者 CGエンジニア検定 取得 マルチメディア検定	卒業研究

▶ 過去3か年の主な就職先: イオンディライト、岩田屋三越、鹿児島銀行、グッデイ、ドン・キホーテ、ネットヨタ北九州、ハウステンボス、福岡和白総合検診クリニック、富士通システムウェブテクノロジーなど

7. 附属城東高校の取組

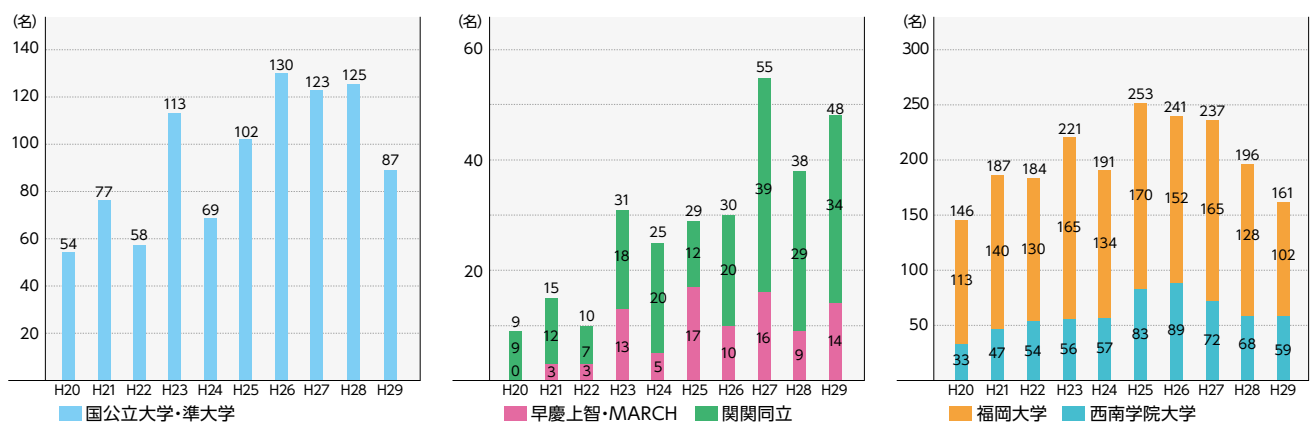
城東高校は、進学・就職・課外活動の実績が継続して良好。入学志願者・入学者は高位安定的に推移しています。

学校改革元年(平成12年)以降、「進路保証」「資格取得支援」「部活動の活性化」に重点をおき、生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かな教育と生徒指導を行っています。学業からスポーツまで、多岐にわたり活動は活発化し、進学・就職・課外活動のいずれも大きな成果が生じています。

国公立大・難関私大合格実績は好調に推移、就職率も4年連続で100%を達成

進学対策は、難関大学特別学習会、個別指導など、20数種の学習方法の改善に取り組み、合格実績は「国公立は高位安定、難関私大は躍進」と好調でした。就職対策も「就職率100%」に向けた様々な支援を行いました。特に、資格取得実績は、第二種電気工事士合格率の「3年連続全国2位」をはじめ、たいへん良好でした。

■ 過年度10年間の合格者推移



■ 過年度10年間の就職状況推移

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
就職対象者	95	116	78	77	73	69	50	72	84	68
就職希望者	95	116	78	77	73	69	50	72	84	68
就職希望率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
就職者	95	116	78	77	73	68	50	72	84	68
就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

就職対象者：卒業者数-進学者数等



グローバル教育(グローバルリーダー養成塾)

柔軟な感性をもち、多様な価値観を受入れながら活躍できる人材を育成するため、学内外で様々なグローバル教育を推進。これまでの短期留学研修に加え、中期留学プログラム(3ヶ月)や部活動による海外スポーツ交流を実施。



世の中研究会

講師に福岡県職員、医師、教員などを招き、講義・ワークショップを通じて、生徒自身が職業についての課題を発見し、解決策を考えるPBL型講座。



ミニふくおか

福岡市主催のまちづくりイベント「ミニふくおか」のボランティアスタッフとして参加。小・中学生(1,500名)の仕事体験などのサポートを行った。

▶ キャリア教育、グローバル教育は、城東高校の教育の特色として積極化しています。

課外活動は全国トップクラス、学力を高める土台を形成

部活動は人間性や社会性を育む重要な教育の機会として指導に力を注いでいます。今年度も、ダンス部の世界大会3位(全国大会3連覇)、吹奏楽部の全国大会金賞受賞など、学術・文化からスポーツまで、国内外で優秀な成績を修めるなど、いっそう活発化しています。



ダンス部 Miss Dance Drill Team International USA 2017 第3位



吹奏楽部 第64回全日本吹奏楽コンクール 金賞受賞



第28回 全日本ロボット相撲全国大会 ラジコン型 経済産業大臣賞受賞



野球部 第98回全国高校野球選手権福岡大会 準優勝



女子ラグビー(1名)、女子バレー(2名) 第71回 国民体育大会出場



科学部ミドリムシ班 平成29年度 日本水産学会春季大会金賞受賞



科学部地学班 第70回全国地学教育研究大会ジュニアセッション 最優秀賞



九州地区 省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 準優勝

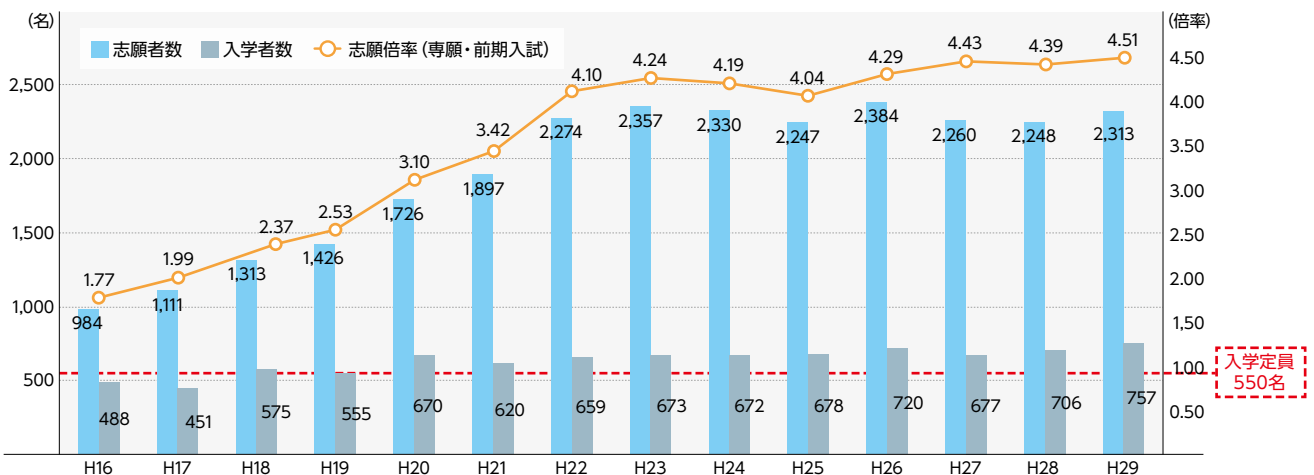
入学志願者・志願倍率は県下トップクラス、目的意識の高い生徒を確保

入学志願者は、改革元年(平成12年)以降右肩上がりの増加傾向です。平成26年度には2,384名に達し、福岡県トップとなりました。以降、高水準を維持しています。平成29年度入試では2,313名を確保し、志願倍率は「福岡地区1位」となりました。

■ 過年度の入学志願者・志願倍率等推移

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
志願者数	984	1,111	1,313	1,426	1,726	1,897	2,274	2,357	2,330	2,247	2,384	2,260	2,248	2,313
入学者数	488	451	575	555	670	620	659	673	672	678	720	677	706	757
入学定員	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550
志願倍率(専願・前期入試)	1.77	1.99	2.37	2.53	3.10	3.42	4.10	4.24	4.19	4.04	4.29	4.43	4.39	4.51

■ 過年度の志願者・入学者・志願倍率推移



▶ 学校説明会参加者(生徒)は前年に過年度最高の3,238名となり、当年度も3,227名と高水準を維持

8. 経営力強化の取組

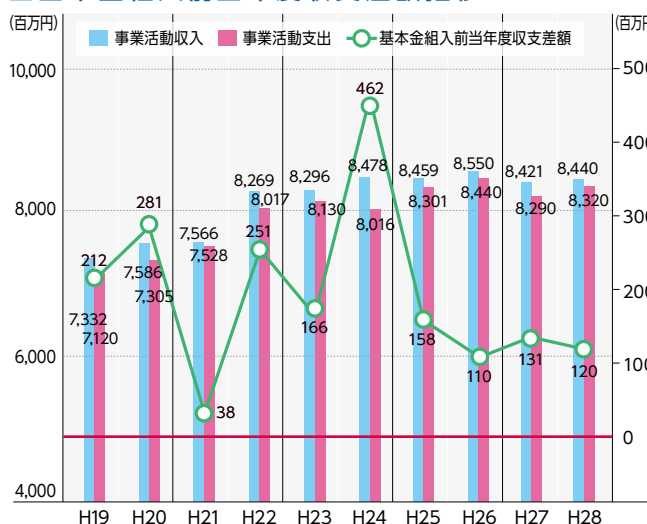
経営効率化で、「教育・研究活動への積極的な財政支援」と「低学費」を両立させています。

経営・財政運営の基本方針は、「安定した財政基盤のもとで、教育・研究活動へ積極的に資金投下する」ことです。PDCAによる経営管理の仕組みによって、経営の効率化・安定化を追求し、全国屈指の低学費でありながら活発な教育・研究活動ができています。

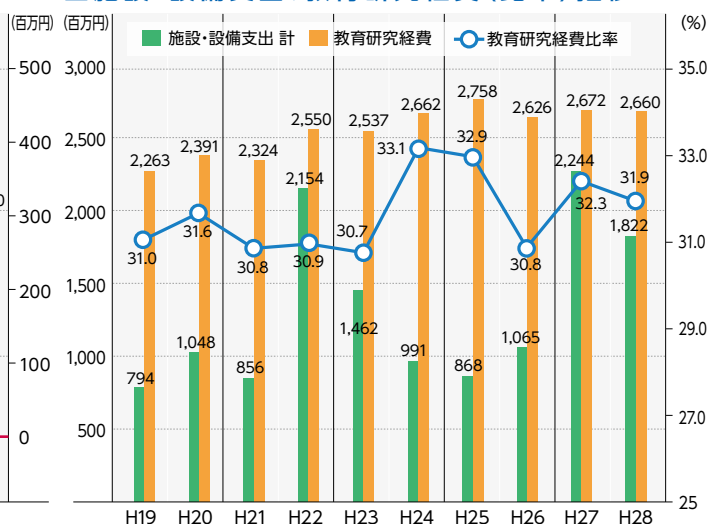
継続的に財政を安定させ、積極的に教育・研究活動へ投資

教育・研究活動とそれらの環境整備への積極的資金投下を行うために、収支差額プラス(収入-支出=黒字)の目標額を低めに設定して、ゆとりある投資資金を確保しています。「低学費でありながら教育・研究活動は活発であること」が財政運営の基本方針です。

■基本金組入前当年度収支差額推移



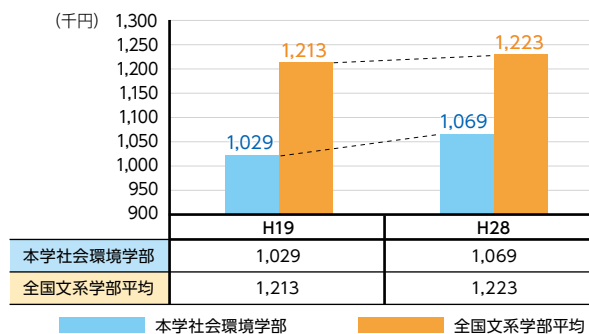
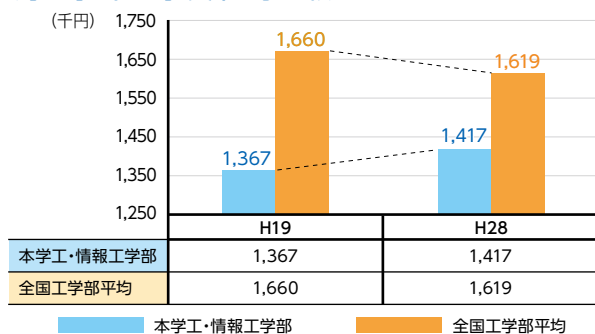
■施設・設備支出、教育研究経費(比率)推移



全国屈指の低学費で経済的負担を軽減

一般的な大学と比べて低学費を維持しています(大学院・短大・高校も同様)。「経済的な理由で退学や休学となる学生・生徒をなくしたい」との考えによります。近年では、経済的理由で退学になる学生は、全国の平均的水準と比べても少なくなりました。

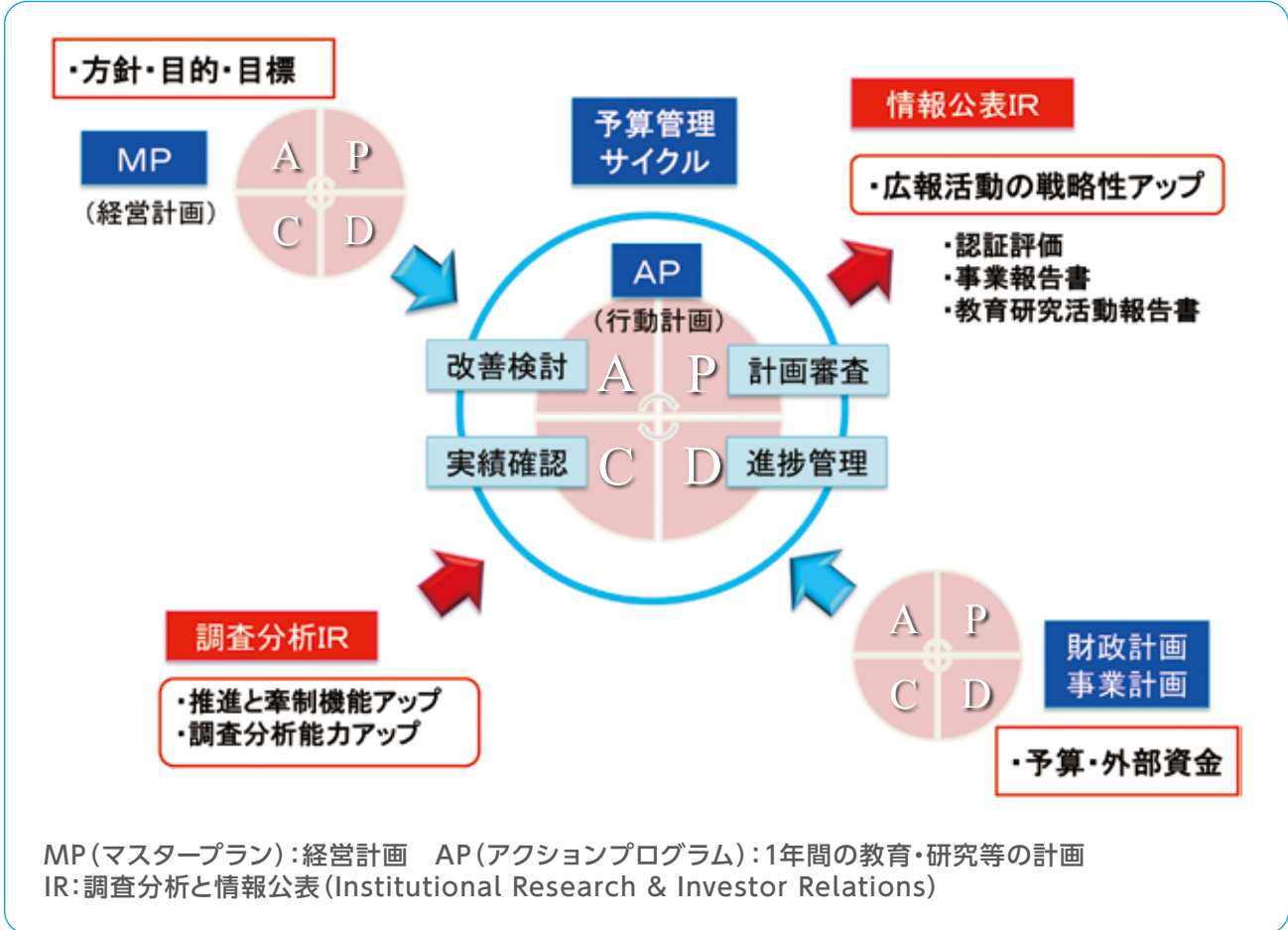
■大学・学部の学費相対比較



▶ 経済的理由で休・退学となる学生も全国平均を大きく下回っています。(経済的理由による退学率は約1%程度)

PDCAによる経営管理システムで学園の経営効率化を実現

PDCAサイクル (Plan:具体的な計画、Do:確実な実行、Check:実績の点検・評価、Action:評価に基づく改善)によって、経営計画や教育・研究計画の実現性や費用対効果を向上させ、経営を効率化しています。



■ AP (1年間の教育・研究等の改善計画) の部署等別進捗状況

定常的な学校業務とは別にAPを策定。全体の7割の取組が「80%以上の目標達成」となり良好な実績でした。

部署等名	事業等数	進捗度別 事業等数					
		100-80%		79-50%		50%未満	
		指標	プロセス	指標	プロセス	指標	プロセス
工学部	31	9	20	0	2	0	0
情報工学部	27	3	23	0	0	1	0
社会環境学部	11	7	3	0	1	0	0
工学研究科	4	0	1	0	0	2	1
社会環境学研究科	0	0	0	0	0	0	0
総合研究機構	3	1	0	0	0	2	0
大学事務局	306	117	80	32	18	27	32
短大学科	54	30	16	2	3	3	0
短大事務局	23	15	5	1	0	1	1
高校課程	44	16	12	8	3	3	2
高校事務局	7	2	1	2	1	0	1
合計	510	200	161	45	28	39	37
進捗占有率	100%	39.2%	31.6%	8.8%	5.5%	7.6%	7.3%

9. 学園運営に対する外部評価

経営力、人材育成・輩出力、学習環境は、特に高い評価を受けています。

経営財務の外部評価(格付審査)について、「受審準備から評価結果公表までのプロセスが、本学園の経営状況の調査・分析・点検・評価として有効」と判断し取り組んでいます。その評価とともに、大学ランキング誌・学校経営研究誌などで高く評価されています。

経営体制とそのガバナンス(経営手法など)に対して継続して高い評価

計画・評価と予算の連動性が高く財政規律が保たれていることや、安定した財務構成とその中で効率的な施設、設備の投資計画が実行されていることについて、引き続き高く評価されています。

■ 格付会社2社から格付を取得 (R&I:(株)格付投資情報センター JCR:(株)日本格付研究所)

経営・財務の安定性で高い評価

R&I格付 **A** 平成22年度から7年連続 [A]

JCR格付 **A+** 平成25年度から4年連続 [A+]

格付評価のポイント

- ・教職員の責任と権限を尊重したリーダーシップスタイルで、法人・教学間のガバナンスは良好な状態を維持している。
- ・学生目線に立ち、不足する支援は何かを問い続ける姿勢と行動は、良好な人材輩出実績を上げ続ける最大の原動力である。

人材育成力、改革・行動力に加え、「学習環境の良好さ」も高い評価

人材育成力、改革力、行動力について、当年度も引き続き高く評価されています。加えて、アクティブラーニング等の新たな教育手法に対応する学習環境の整備についても評価が高まっています。

■ 主要ランキング

改革総合支援事業 九州私学 1 位 (全国3位) ▲「サンデー毎日」(2017.2.5号)	改革力の高さ (進路指導教諭が評価する大学) 九州私学 1 位 (全国4位) —— 大学通信「大学探しランキングブック 2017」(2016.12.20発行) ——	実就職率 九州私学 1 位 (全国8位)	改革力が高い大学 (進路指導教諭アンケート調査) 九州私学 1 位 (全国42位) ▲東洋経済オンライン(2017.6.9発表)
就職支援に熱心に取り組んでいる 九州私学 1 位 (全国4位)	企業に選ばれる大学 (人事担当者が評価する大学) 九州私学 1 位 (全国69位) —— 日経 HR・日経キャリアマガジン「価値ある大学 2018 年度版」(2017.6.7発行) ——	行動力がある 九州私学 1 位 (全国19位)	学習環境が整っている 九州私学 1 位 (全国9位)

学校経営の「見える化」を促進、全国に向けて積極発信

経営管理の仕組みやその成果について、日本私立学校振興・共済事業団や日本私立大学協会等の関係団体の調査・研究で高い評価を受けました。この他、予算管理、情報公表、職能開発(SD)の仕組みについても幾度となく調査研究の対象となり、好事例として全国に数多く紹介されています。平成28年10月には、文部科学省の「私立大学等の振興に関する検討会議」において、地方私大の改革事例として報告を求められ、相応の評価を得る機会を得ました。

 <p>「大学経営強化の事例集」</p> <p>文部科学省委託研究において、本学の経営計画およびその実行計画の管理運営システムについて、数少ない好事例として紹介されました。</p> <p>(2007.3)</p>	 <p>「私学経営」</p> <p>私学経営研究会セミナー（東京・大阪の二地区で開催）における常務理事の経営管理に関する講演の抄録が掲載されました。</p> <p>(2008.3)</p>	 <p>「学校法人」</p> <p>経費効率化を促し教育効果を向上させる予算制度が構築されているとして、高く評価され紹介されました。（日本私立学校振興・共済事業団レポート）</p> <p>(2008.7)</p>
 <p>「大学外組織評価研究会」</p> <p>大学評価・学位授与機構の研究で、本学の経営管理システム、特に様々な取り組みの評価活動について、他大学に重要な示唆を与えるとして評価されました。</p> <p>(2009.3)</p>	 <p>「大学評価・学位研究」</p> <p>本学のPDCAの一環として行う事業評価・改善の手法が、非営利組織の経営論の権威であるピーター・F・ドラッカーの経営理論との対比によって評価されました。</p> <p>(2010.3)</p>	 <p>「大学経営の評価システム」</p> <p>本学のPDCAを基盤とした経営システムが、評価が機能する体制の好事例として取り上げられました。</p> <p>(2012.3)</p>
 <p>「教学IRとエンrollment・マネジメントの実践」</p> <p>本学の中期経営計画に基づいた経営管理システムが、実行できる中長期経営計画の好事例として、常務理事、事務局長のインタビューと併せて紹介されました。</p> <p>(2012.3)</p>	 <p>「中長期経営システムの確立、強化に向けて」</p> <p>実効性のある中長期経営システムの構築に関連する事例調査の対象校の一つとして選定され、本学の中期経営計画に基づいた運営の特長が紹介されました。</p> <p>(2013.2)</p>	 <p>「大学マネジメント改革」</p> <p>中堅職員対象の渡米研修による職員の企画・開発力養成に向けた取組が、先駆的なマネジメントシステムを担う、職員の能力開発の好事例として取り上げられました。</p> <p>(2014.3)</p>
 <p>「私学経営」</p> <p>経営管理システムに内包するSD・OJT機能について、全国の大学関係者の前で講演した内容が、私学経営研究会の会誌に掲載されました。</p> <p>(2014.5)</p>	 <p>「IDE 現代の高等教育」</p> <p>本学の中堅職員の渡米研修が、戦略経営人材の育成の好事例として紹介されました。</p> <p>(2015.4)</p>	 <p>「Between」</p> <p>対話し、議論する力を独自の成果指標で育成・評価する本学のアクティブラーニングが紹介されました。</p> <p>(2015.4)</p>
 <p>「カレッジマネジメント」</p> <p>PDCAサイクルにより大学経営を高度化させる経営管理の仕組みが、他大学の先進事例として紹介されました。</p> <p>(2015.7)</p>	 <p>「学校法人」</p> <p>経営計画をサポートする財政計画と予算管理の役割について、セミナー講演の抄録が新春号巻頭で掲載されました。</p> <p>(2016.1)</p>	 <p>「大学のミッション経営」</p> <p>学園のミッション（使命）を具体化してPDCAサイクルのもとで実効性を高める本学の経営管理システムが、優良事例として紹介されました。</p> <p>(2016.7)</p>
 <p>「大学・短期大学経営の事例集～経営基盤の強化のために～」</p> <p>私学スタッフセミナー（日本私立学校振興・共済事業団）での講演抄録が冊子としてまとめられました。</p> <p>(2017.3)</p>	 <p>「私学経営」</p> <p>本学の経営計画策定とその実質化に向けた取組や経営改革ツールとしての広報活動について、私学経営研究会の会誌に掲載されました。</p> <p>(2017.5)</p>	 <p>「私大振興検討会議 議論のまとめ」</p> <p>28年10月に、文部科学省「私立大学等の振興に関する検討会議」の席に学園の常務理事が招致され、経営改革事例を報告した議論のまとめが公表されました。</p> <p>(2017.5)</p>

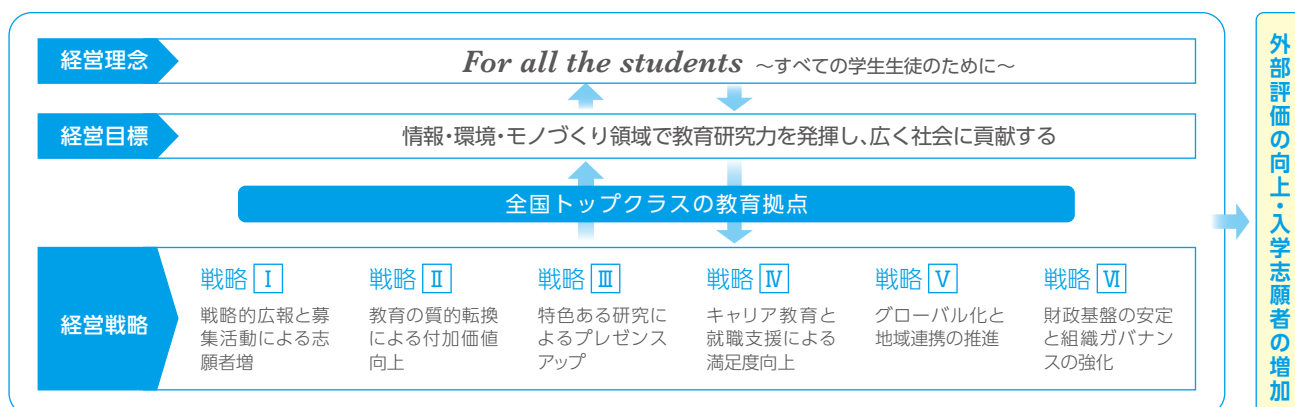
1. マスタープランの概要

経営理念「*For all the students*」を具現化するため、マスタープランを策定して「学校改革」を続け、多くの成果を創出しています。

経営理念は、すべての教職員の諸活動における根本的考え方です。また、すべての教職員にとって、「学生・生徒のために「Just Do It! (即実行)」」が行動の基本です。これらの精神と「公教育を担う学校法人としての使命感」を携えて、教育・研究にあたっています。

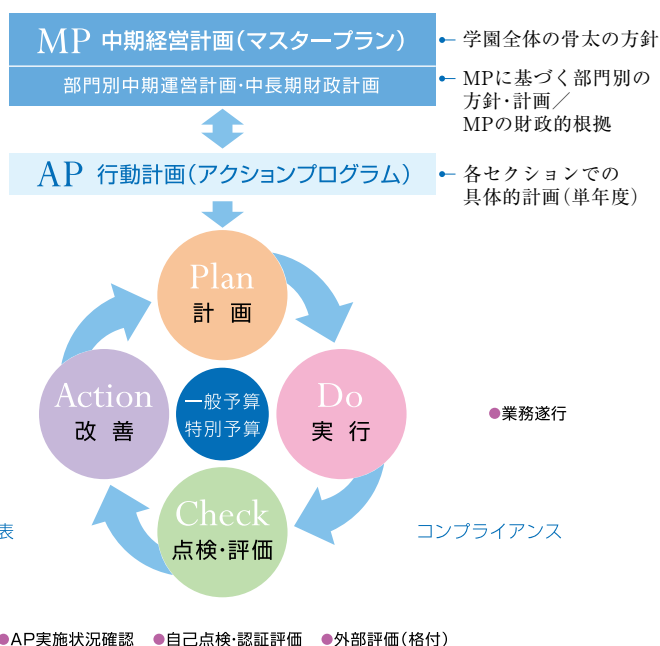
「全国トップクラスの教育拠点」を目指して、第7次マスタープラン(経営計画)を策定

第7次マスタープランでは、「財政基盤の安定」と「学園の質向上」を両立させ、「全国トップクラスの教育拠点」へと飛躍することを目標に掲げています。6つの経営戦略(総合的目標)に沿って、全学をあげて諸改革に取り組んでいます。



マスタープランに基づき、毎年500件のアクションプログラム(改革・改善計画)を実施

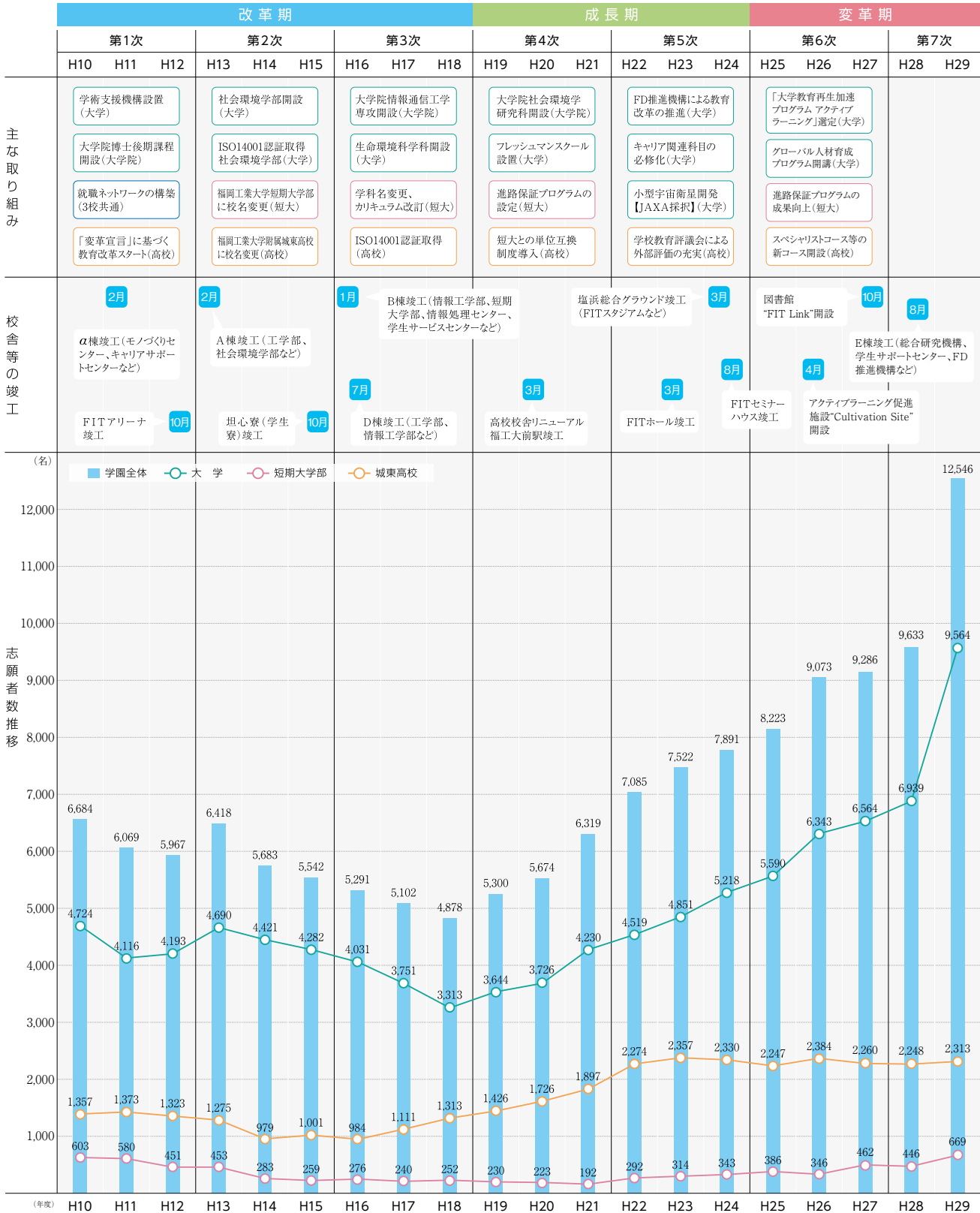
マスタープランを毎年約500件の行動計画に分解・具体化し、予算編成とリンクさせることで、諸計画の実現・実効性を高めています。また、予算管理と関連したPDCAサイクルによって、各部門が自立的な点検・評価を実施することでも、諸計画の実現性が高くなっています。



マスタープランとアクションプログラムの大きな成果として、入学志願者が増加

大学は、11年連続で入学志願者が増加しました。短大も増加傾向であり、安定して志願者を確保しています。高校は、平成16年度以降7年連続で入学志願者が増加、以降、「県下トップクラス」を維持しています。

■ マスタープランの成果



いばこわい

主要な取組成果

学園のプロフィール

教育改善・研究高度化・キャリア教育・就活支援の具体的な取組状況

バックデータ集

2. 学園の沿革

「科学技術創造立国」に貢献し得る「全国トップクラスの教育拠点」の形成を目指しています。

大学・短大・高校の3校を設置しています。教育・研究領域は情報・環境・モノづくりの分野です。この領域に対応し、組織・体制(学部・学科・研究施設など)を整えてきました。短大・高校も、大学との教育連携や内部進学推進など三位一体となって発展してきました。

大学・短大・高校の3校を設置、教育連携、内部進学推進等を通じて三位一体で発展

3設置校が三位一体となって、国の「科学技術創造立国」政策や「地元九州・福岡の発展」に貢献することを目指してきました。学生・生徒数は学園全体で約7,000名が在籍し、日々学術研究活動に勤しんでいます。



福岡工業大学



福岡工業大学短期大学部



福岡工業大学附属城東高等学校

工業技術、情報技術、さらに環境技術の進展に合わせて成長・発展

昭和29年以来、高校、短大、大学を順次開設してきました。大学は、工学部を起点に、高度情報社会に対応して情報工学部を、工業技術の環境調和に向けて社会環境学部を開設し、平成25年度に開学50周年を迎えました。国や社会のニーズに応えながら成長・発展しています。

沿革

電気通信技術の普及・振興に向けて—高校、短大、大学3校を開設—

昭和29年(1954年) 福岡高等無線電信学校を創設
昭和33年(1958年) 学校法人福岡電波学園福岡電波高等学校を開設
昭和35年(1960年) 福岡電子工業短期大学(電子工学科)を開設
昭和38年(1963年) 福岡電波学園電子工業大学工学部(2学科・電子工学科、電子材料工学科)を開設

建設中の校舎(昭和37年頃)▶



電子技術立国による高度経済成長に向けて—工学系総合大学へ—

昭和41年(1966年) 大学の名称を福岡工業大学に変更。学科増設で工学部6学科(電子、電子材料、電子機械、管理、電気、通信)体制に
昭和58年(1983年) エレクトロニクス研究所開設

校舎の様子(昭和41年頃)▶



高度情報化・工業技術専門化に向けて—情報科学分野の拡充と大学院開設による教育・研究の高度化—

平成5年(1993年) 大学院工学研究科修士課程開設
平成9年(1997年) 大学に情報工学部開設(4学科)
平成10年(1998年) 情報科学研究所開設
平成11年(1999年) 大学院工学研究科博士後期課程開設

新分野拡充のために新校舎建築(平成5年頃)▶



工業技術発展と環境の調和した持続可能社会に向けて—文系環境学部の新設で文理融合型大学へ—

平成13年(2001年) 大学に社会環境学部(文系)開設
高校の名称を福岡工業大学附属城東高等学校に変更
平成17年(2005年) 短大の学科名を情報メディア学科とビジネス情報学科に変更
環境科学研究所開設
平成19年(2007年) 大学院社会環境学研究科修士課程開設

環境配慮と先端設備を同居した
新型キャンパスへ転換(平成17年頃)▶



開学50周年・九州No.1の教育拠点に向けて—大学改革のニーズに対応した教育・研究環境の構築—

平成25年(2013年) 国際戦略室を設置<国のグローバル戦略への対応目的>
平成26年(2014年) 先端技術地域連携センターを設置<研究成果の地域社会への還元を目的>
大学・地域連携推進室を設置<外部連携による地域発展への貢献を目的>
平成27年(2015年) 大学の入学定員を830名から915名(工学部380名・情報工学部375名・社会環境学部160名)に拡大
教養力育成センターを設置<教養教育の見直しとその教育方法等改善を目的>
平成28年(2016年) 物質・エネルギーデバイス研究センターを設置<研究成果の地域社会への還元>
学長室を設置<学長を中心とした教学ガバナンス強化>
大学院工学研究科(修士課程)管理工学専攻を情報システム工学専攻とシステムマネジメント専攻に改組

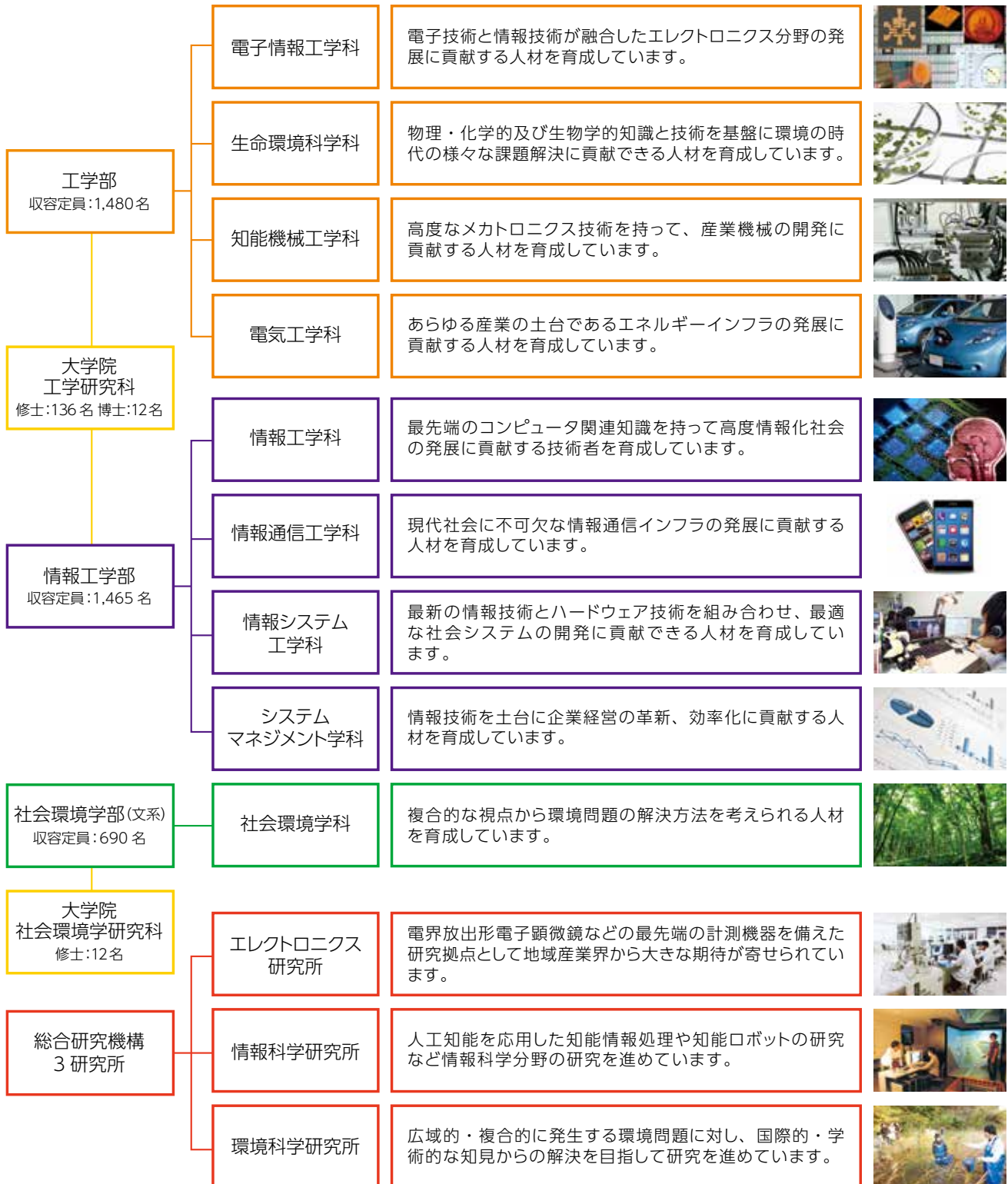
環境教育・研究のフィールドとして
おとめが池を整備(平成27年4月)▶



「情報・環境・モノづくり」分野で大学3学部9学科、大学院2研究科を設置

「情報・環境・モノづくり」の活動領域に対応して、大学は、工学部、情報工学部、社会環境学部の3学部9学科、大学院は工学研究科、社会環境学研究科の2研究科を設置しています。

■大学(学部・学科)・大学院・3研究所概要 ※収容定員は平成29年度



▶ 生命環境科学科は、平成30年4月に「生命環境化学科」に名称変更の予定

3. キャンパスの概要

キャンパス全域の整備が進み、教育・研究機能の高度化、キャンパスライフの利便・快適性は、いっそう向上しました。

平成9年から計画・段階的にキャンパスを整備してきました。α棟を起点に、A～D棟の教育4棟、FITアリーナ・ホール・スタジアム・セミナーハウスを整備し、今年度はE棟（研究活動・学生サポート機能等）が完成しました。教育・研究機能の高度化、課外教育活発化、キャンパスライフの利便・快適性は、いっそう向上しました。

先進技術と自然環境が調和、学術・文化・スポーツが活発化するキャンパスを創造

先進工業技術・ICT技術・自然環境が調和したキャンパスを整備しています。おとめが池を中心に桜やケヤキの並木、芝生広場、常緑樹林帯を配置し、「くつろぎ機能」をふんだんに織り込み、学びの場として良好な環境となっています。



キャンパスライフをサポートする施設が充実、文化・スポーツ・地域交流がいっそう活発化

文化・スポーツ・地域交流の場として、FITアリーナ、FITホール、FITスタジアム、FITセミナーハウスを設置しています。この他、FITアリーナウエストコートや相撲場の新設、エクステンションセンターの移設・改装などの整備を行いました。



FITアリーナ



FITホール



FITスタジアム



FITセミナーハウス
(大分県由布市)

「第Ⅲ期施設・設備整備計画」は順調に進捗、キャンパス全域の教育・研究機能がいっそう高度化

国・社会から求められる大学改革ニーズに積極的に対応するために、キャンパス全域を再構築しています。学生の主体的学修促進を中核にした教育の質的転換、産業界等との連携、地域発展への貢献、並びにグローバル化を促進し「全国トップクラスの教育拠点」を目指しています。

(平成27年7月計画策定)

＜キャンパス整備の主要な目的＞

- 1 アクティブラーニングの拡大
- 2 情報処理・情報編集技術の高度化
- 3 ラーニング commons の学習機能向上
- 4 キャンパスライフの快適性向上
- 5 研究高度化・実用化の加速
- 6 キャリア教育・グローバル化教育の高度化
- 7 地域社会・産業界と連携強化

■ 第Ⅲ期施設・設備整備計画の進捗状況レポート (ファシリティレポート)

(平成28年11月)



ファシリティレポート Vol.3

E棟新設 研究活動・学生サポート・FD機能の集約・高度化



最新式環境配慮・省エネ型の空調システム(屋上)



特定用途実験室(シールドルーム、暗室、ラマン分光室等の7室を配置)



アクティブラーニング教室(双方向授業スタイル)

(平成29年5月)



ファシリティレポート Vol.4

B・C・D棟改装 ラーニング commons 整備、高度ICT教育環境等の整備



学習・くつろぎのための学生ラウンジ



高度ICT教育に対応するPC群(最先端PC教室)



エクステンションセンター 地域社会・学生の交流ラウンジ

「全国トップクラスの教育拠点」

▶ 平成29年10月には、学生の研究活動をサポートする、スチューデントラボ(2,000㎡)を開設します。

1. 教育改善の取組

「学生の主体的な学修」を主な目的として、全学的に新たな教育内容・方法を開発・試行しています。

教育内容・方法の改善・向上に関する企画、開発、実施及び支援を行うためにFD推進機構を設置しています。ここで、FD(教授・教育方法開発)に関する取組の立案・実施(アクティブラーニング(AL)展開など)や学部等におけるFDの支援を行いました。

教育改善の諸活動が「効果的教育手法」として確立

教育の質向上を進めるための基盤(FD推進機構運営委員会や各学協会等の設置など)を整備し、全学または各学部等で「学生の主体的な学修」を促す方策等の議論を活発に行ってきました。学部等の特徴を活かしながらアクティブラーニング型授業を増加させる等の教育改善活動を継続しています。

	工学部	情報工学部	社会環境学部
全学FD	<ul style="list-style-type: none"> ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー改訂 アクティブラーニング展開 教養教育ポリシー改訂 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの高度活用 英語教育カリキュラム改訂 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ高度化
学部別FD	<ul style="list-style-type: none"> 講義PDCA 学部と大学院の連携教育 FD研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 教育改善PDCA 個別相談コーナー開設 他学科科目履修制度創設 FD研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 先進的教育事例研修 FD研修会
入学前教育	<ul style="list-style-type: none"> e-Learning方式による数学基礎力強化(推薦入試合格者対象) 		<ul style="list-style-type: none"> テキスト課題による数学基礎力・作文力強化(推薦入試合格者対象)
リメディアル教育	<ul style="list-style-type: none"> 導入科目による基礎学力の底上げ 「フレッシュマンスクール」による数学基礎力向上 		<ul style="list-style-type: none"> 「フレッシュマンスクール」による作文力向上
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 情報系基礎科目による情報スキル養成 		
英語教育	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別クラス編成による効果的な教育の実施 		
創成型教育	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決型授業による創造性を磨く授業の展開 		
少人数ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 実験科目・ゼミナールなどにおける自主的学修の促進 		
表彰制度	<ul style="list-style-type: none"> 成績優秀者、資格取得者の表彰 		<ul style="list-style-type: none"> 資格取得者の表彰



FD研修会の様子



アクティブラーニングの様子




フレッシュマンスクールの様子

アクティブラーニング(AL)の取組は大きく進展


AL型授業推進プログラムは、学内の教育技術開発グループの活動を起点として全学展開を図り、講演会・研修会の実施等による情報の共有、授業アーカイブシステム等の導入などによって大きく進展しました。(平成26年度文部科学省大学教育再生加速プログラムに採択)

■「授業アーカイブを活用した反転授業」のイメージ

オンライン学習
基本確認



対面授業&対話型授業
応用・発展演習



■ALを導入した授業科目の割合


52.0%

(平成28年度当初目標50%)

■ALを受講する学生の割合

88.6%

(平成28年度当初目標75%)



フリッカーを使用したAL研修会の様子

■ALを行う専任教員の割合

88.2%

(平成28年度当初目標60%)

■授業アーカイブ利用学生数

1,203人

(平成28年度当初目標50人)

▶「反転授業」では、動画として用意された講義の一部を授業アーカイブシステムで事前に視聴し、実際の講義ではこの予習で得た知識を応用して問題を解いたり、議論を行ったりして講義内容の理解を深めます。

リメディアル(基礎学力補完)教育は大幅に充実

新入生の学修サポートとして、基礎学力養成のための「集合学習」と学習相談や悩みに対応する「個別指導」を行っています。1年間の課外カリキュラムで大学での学習に必要な力と、自ら学修する習慣を身に付けています。

■学習分野とそれぞれの特徴

数量的スキル	コミュニケーションスキル	
<p>①集合学習: 週1回の授業</p> <p>数学ベーシック (数の取り扱い)</p> <p style="border: 1px solid purple; border-radius: 15px; display: inline-block; padding: 2px 10px;">工学部・情報工学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学習 ・グループ学習 ・自分のペースで学習 ・数学基礎の理解促進 ・自習力向上 	<p>レポーティングスキル (書く力)</p> <p style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; display: inline-block; padding: 2px 10px;">社会環境学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「テーマ」に対する考え文章化 ・伝わりやすい文章作成 ・ポイントの押さえ方習得 ・語彙力伸長 ・文章力伸長 	<p>ディベートスキル (話す力)</p> <p style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; display: inline-block; padding: 2px 10px;">全学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えのまとめ・発表 ・グループ意見のまとめ・発表 ・会話の流れに沿った発言 ・他者の意見理解 ・コミュニケーション力伸長
<p>②個別指導: 学習や学生生活に対する相談・指導</p>		

▶「数学ベーシック」、「レポーティングスキル」を受講した学生は、受講後は数学・国語基礎学力が向上しています。

2. ラーニングサポートの取組

調べ・考え・まとめ・発表する力を啓発・向上させるために、快適・開放的な学修・創造空間を整え、自発的学修をサポートしています。

調査・分析、課題設定・解決、創造等の社会人基礎力の習得をサポートするために、近年、アクティブラーニングスペースやラーニングコモンズの整備に取り組んでいます。また、モノづくりセンターは創作力、エクステンションセンターは自己啓発力をそれぞれ主体的・能動的に習得する空間となっています。

高度ICT教育環境を新設、学生の自発的学修や創作活動など諸活動は活発化

先進的図書館「FIT Link」、高度ICT研究・実験・教材開発拠点「クリエイティブラボ」の整備に続き、高度なICT授業を全学的に展開するために、最先端PC教室やITコモンズを新設しました。授業課題・資格取得対策・創作活動等、学生の諸活動はいっそう活発化しました。

■ 先進的図書館FIT Linkフロア構成



FIT Link 5F Silent Floor

高度な調査・研究に集中するための「超静穏環境」を整備



FIT Link 4F Quiet Floor

パーソナルな学習環境として、「静穏」な学習空間を整備



FIT Link 3F Active Floor

アクティブラーニングの拡大に向けて、透明性・開放性の高い学習空間を整備

- ・利用者数は、前年比1.7倍
- ・Web閲覧は、前年比1.2倍

■ クリエイティブラボでの創作物



新宮町おもてなし協会、同産業振興課と協働して、新宮町の魅力をアピールするポスターを製作
(クリエイティブユニット「UNIQUE」が製作)



新宮町長へポスターを贈呈

■ ITコモンズ



学生がいつでも自由に使用できるITコモンズ。多くの学生が課題や資格取得の勉強等で活用

▶ 高度ICT教育に対応する最先端PC教室の整備(B棟)は、文部科学省「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」に採択されました。

また、平成29年度から運用を開始する「学生統合データベース」で、これら機器の利用状況、学生の学習成果、生活実態等を解析し、教育改善に役立てます。

学生のモノづくり意欲に全国屈指の創造空間で対応、創作力の習得をサポート

学生の創造力や創作意欲に対応してモノづくりセンターを設置しています。いつでも使えるオープンスペース、高精度の工作機械・器具・測定器、数百種のパーツ・材料を備え付け、専門技術スタッフを配置しています。

■モノづくりセンターのプロジェクト

学生82名が
メンバー登録



二足歩行ロボット



ソーラーカー



ロボット相撲



ビオトップ



ロボットコンテスト



手作りアクセサリ



小型衛星開発

ロボット相撲
(3kg級・自立型)
2台が全国大会出場

■モノづくりセンターリーダー研修会



「私はこのようなリーダーをめざす」を研修テーマに、ワークショップ等を実施。学生14名が参加。

■モノづくりセンターの地域交流活動



立花小学校プログラムでのモノづくり教室の様子

▶ 学生は当センターでの創作活動のほか、モノづくり教室など地域交流活動にも積極的に参加しています。

学生の啓発意欲に「FIT資格取得支援講座」で対応、自己啓発力を刺激・サポート

英語力アップに向けたTOEIC講座、就職対策として公務員講座、SPI対策講座、環境・流通系講座、事務能力講座、IT能力向上に向けたMOS講座等、資格取得や就職対策等の講座を約60講座(学部・学科での講座含む)開講しています。1年間の受験者数は1,370名に達しました。

■平成28年度 資格取得試験受験状況

資格・試験名	受験者数(名)
Microsoft office Specialist (MOS)	452
TOEIC	420
日商簿記検定(1級・2級・3級)	110
ITパスポート	118
基本情報技術者試験 (FE)	70
秘書検定(準1級・2級・3級)	74
リテールマーケティング(2級)	44
環境社会検定試験 (eco検定)	26
CG検定	12
WEBクリエイター(上級・初級)	6
バイオ技術者認定試験(上級・中級)	6
CCNA (ICND1、ICND2)	9
医療事務検定	5
応用情報技術者試験 (AP)	2
情報セキュリティマネジメント	7
LPIC	9
合計	1,370

■エクステンションセンターの7つのメリット

- 1 学内ダブルスクールによる、時間・交通費の節約
- 2 合格実績の高い講師招聘による、確実な資格の取得
- 3 生涯学習支援の一環として、受講料は安価
- 4 エントリー資格から難関資格まで、多彩に用意
- 5 団体受験会場として、普段の授業と同じ環境で受験が可能
- 6 受験料の割引が適用可能
- 7 過去3年以内の卒業生は、在学生と同じ受講料で受講が可能

▶ 平成28年度資格取得実績は、難易度の高い第1級陸上無線技術士に18名合格など良好 (P.54「バックデータ集」参照)

3. 研究高度化の取組

研究領域と研究規模の拡大によって、研究成果の有用・実用性が向上しました。

総合研究機構のもとで、研究資源(研究組織、研究予算、研究設備等)の充実、研究シーズ・研究成果等の情報公表の積極化、研究ネットワークの構築を図りました。このことが、科学研究費等外部研究支援事業の良好な採択、受託・共同研究事業の大幅な増加につながりました。

研究活動の拠点を整備、研究の産官学連携が産業界の技術発展に貢献

新棟(E棟)にキャンパス全域の様々な研究機能を集約しました。研究活動の高度化・実用化に向けて3研究所、オープンラボ等を配置し、最新の機器(約60種)を整備しました。これらの機器は、文部科学省等補助事業の申請を行い、相応の評価を受けて、難易度の高い支援事業に採択されたものです。

■オープンラボ



産業界等外部との連携と共同研究の促進

■リサーチcommons



異分野との研究交流を促進

■DXR顕微レーザーラマン分光装置 (文部科学省・私立学校研究装置等施設整備費採択)



試料にレーザーを照射し、ラマン散乱光から物質の種類や状態を調べる装置。非接触・非破壊で、分子構造解析、結晶性評価、残留応力解析が可能。

■発電デバイス評価用負荷装置 (文部科学省・私立大学等戦略的研究基盤形成支援事業採択)



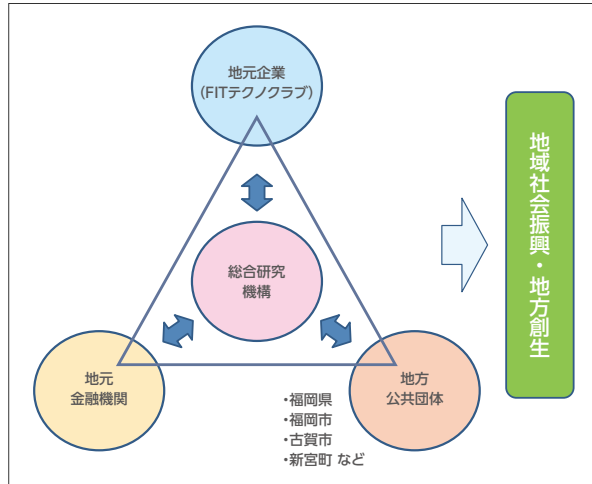
発電特性評価試験を行う装置。エラストマー(ゴム弾性を有する工業用材料)シートの上下にカーボン電極を塗布し、変位制御純せん断繰り返し試験と二次元等軸繰り返し試験をしながら、発電データを記録し、最適な電子回路のパラメータと力学試験条件を調査。

▶ 「共同研究機器管理システム」の導入(平成29.4月から運用を開始。研究機器の利用利便性向上、利用状況等のデータ解析が主目的)により、研究関連機器の学内外での利用拡大につながっています。

総合研究機構を設置し研究支援体制を構築、外部連携・研究交流はいっそう活発化

総合研究機構では、研究シーズ・研究成果の公開、地域社会等の研究ニーズ等を把握し、地域企業等との連携を強めつつ研究高度化に努めています。当年度は、オープンラボ、リサーチcommonsなどを開設しました。研究成果の社会還元・実用化を促進する体制が整いました。

■ 研究活動推進ネットワーク



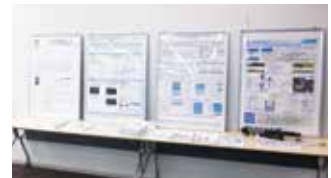
■ 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 新技術説明会に参加

研究成果(特許)を実用化(技術移転)させることを目的として、新技術や産学連携に興味のある企業関係者に向けて、研究者がプレゼンを行う特許の説明会。

本学から5事業発表(九州の私大では本学を含め3大学のみ)。企業からの受付総数は120件、そのうち個別相談は13件あり、産学連携に向けた協議を継続中。



新技術説明会でのプレゼンテーション



▶ JSTの産学連携助成「マッチングプランナープログラム／企業ニーズ解決試験」(平成28年度採択率39%)に2件採択。今後の地域企業との連携による社会的・経済的波及効果が期待されます。

高い研究意欲に対応した研究予算制度を構築、研究の質向上をバックアップ

公正・厳格な審査制度のもとで、有望な研究計画に対して研究費の支援を行っています。若手教員・新任教員スタートアップ、学際連携、大型プロジェクト等、重層的な研究予算を設けて研究者の研究意欲に応えています。

■ 平成28年度 若手・新任教員スタートアップ支援 11事業

	教員名	研究部門	研究課題
1	前田 文彦 教授	電 子 工 学	分子線エピタキシャル成長法による半導体基板上へのグラフェン直接成長
2	白濱 秀文 准教授	生 産 工 学	次世代パワー半導体デバイスの利用技術に関する基礎研究
3	江頭 竜 准教授	生 産 工 学	ノズル噴射式マイクロバブル発生装置による池の浄化と超音速ノズルの開発
4	野瀬 敏洋 助教	エレクトロニクス関連	調和解析学における非実解析的関数に関する漸近解析
5	松尾 慶太 准教授	シ ス テ ム 科 学	無線LANと超音波によるマシンテニスのための衝突回避システムの提案と評価
6	徳安 達士 教授	シ ス テ ム 科 学	要支援学生の早期発見に向けた臨床心理士の経験則に基づくテキスト分析
7	李 知炯 助教	シ ス テ ム 科 学	熱中症予防のための生体情報スマートイヤーマニターシステムの実用化に向けた開発研究
8	藤崎 清孝 准教授	シ ス テ ム 科 学	次世代衛星回線に資する気象データに基づく適応型降雨対策技術の開発
9	内田 法彦 准教授	情 報 応 用	移動体通信を考慮した予測型アンテナ指向制御機能を用いた耐遅延性情報通信システムに関する研究
10	傅 靖 助教	シ ス テ ム 科 学	Information Pooling Game in Multi-Portfolio Optimization and Formation of Unconstrained Consensus
11	尹 諒重 准教授	社 会 環 境	研究組織における創造性と効率性のバランス: 研究人材に起因する要因

■ 平成28年度 プロジェクト研究準備支援 1事業

	教員名	研究部門	研究課題
1	砂原 賢治 准教授 (分担者) 北崎 訓 助教 山口 裕 助教	生 産 工 学	省エネ・環境対応目的で普及が広がるインバータ駆動モータで生じる軸受電食の原理解明

■ 平成28年度 3研究所公募研究 26事業

エレクトロニクス研究所 12事業、情報科学研究所 10事業、環境科学研究所 4事業

4. キャリア教育・就活支援の取組

キャリア教育の改善・実質化の取り組みは、多彩なキャリア支援策として充実しました。

入学初年次から就業力育成教育を正課の中に体系化して組み込み、学士課程を通して就業力を育成しています。また、産業界や他大学と連携・協力してキャリア教育手法の開発・充実を図り、大きな成果をあげています。

就業力育成プログラムと就活支援プログラムはいっそう効果を発揮

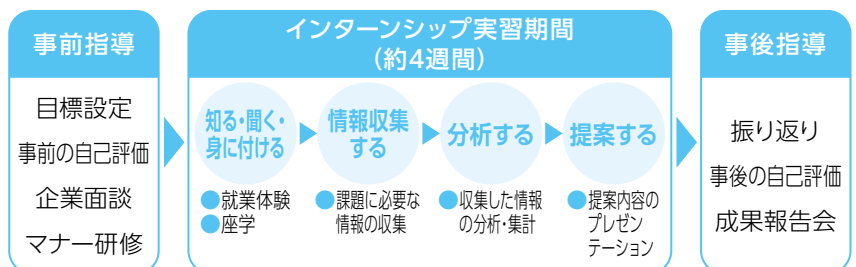
「学生・保護者にとって進路が決定することの重要性」を強く認識し、平成24年度から正規教育課程に「就業力育成プログラム」を組み込んでいます。「就活支援」は、挨拶教育・個人面談(全員面談)を起点・足掛かりとして、会社面接・履歴書講座、業界研究など15種類の就活サポートを行いました。

■ 就業力育成プログラムと就職支援の取組

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
カリキュラム	志向する力	キャリア形成						
	共働する力	日本語表現	コミュニケーション基礎					
	解決する力		技術者論理					
	実践する力		就業実習				卒業研究	
			← 特定専門科目 →					
就職支援の取組	目的意識	・全員面談 ・学生生活プランニング指導 ・挨拶・マナー指導						
	目標設定					・個人面談 ・学科別ガイダンス		
	就職活動					・個人面接・マナー指導 ・SPI対策講座	・OB企業人ガイダンス ・保護者ガイダンス ・履歴書添削指導 ・模擬面接・集団面接練習会 ・学内合同企業説明会 ・学内単独企業セミナー ・就活交通費支援	

■ 課題解決型インターンシッププログラム

企業が実際に抱える課題に取り組み、課題を解決するためのプロセスを実践することで実社会でも応用可能な汎用的能力を養うことを目的とする。

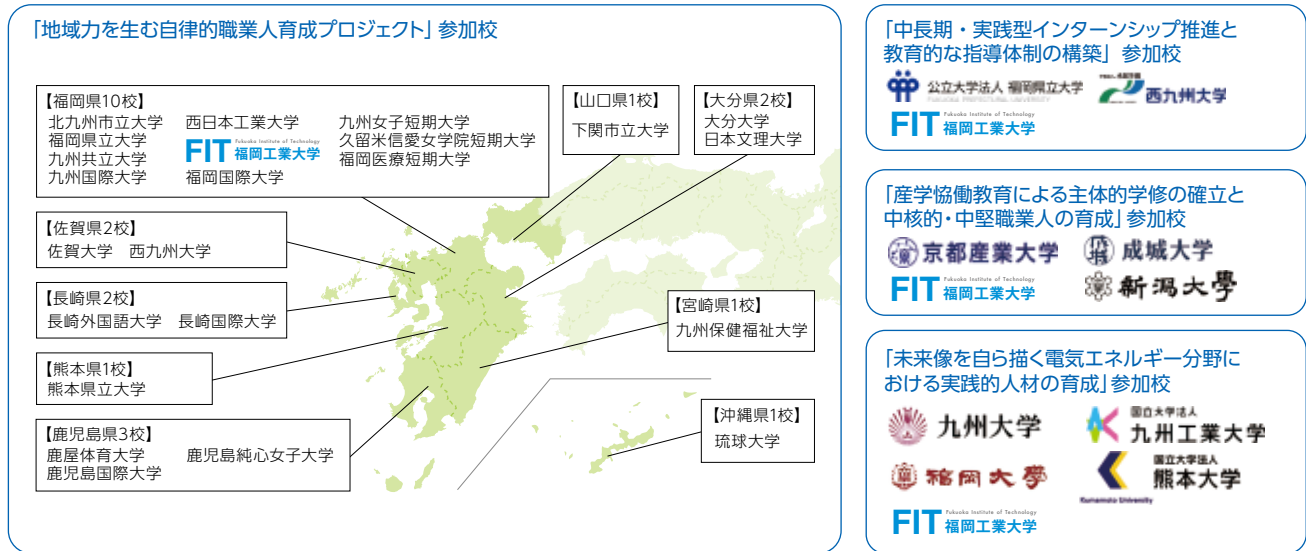


- ・平成27年度から、正課「就業実習」の一形態として実施。(4～5週間)
- ・産業界・他大学と連携して、プログラムを開発。
- ・平成28年度は8企業等・10プロジェクトに20名が参加。8名の職員がサポート。
- ・受入先企業等でも社員への波及効果が確認され、高評価。

キャリア教育プログラムを産業界・他大学と連携・協力して洗練・実効化

就業力育成等のキャリアプランニング支援には、他大学、企業、行政等の外部の評価・意見が有用であることから、平成24年以降、外部と連携・協力して開発・実践してきました。ほとんどの取組が文部科学省の「大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)」に選定されました。

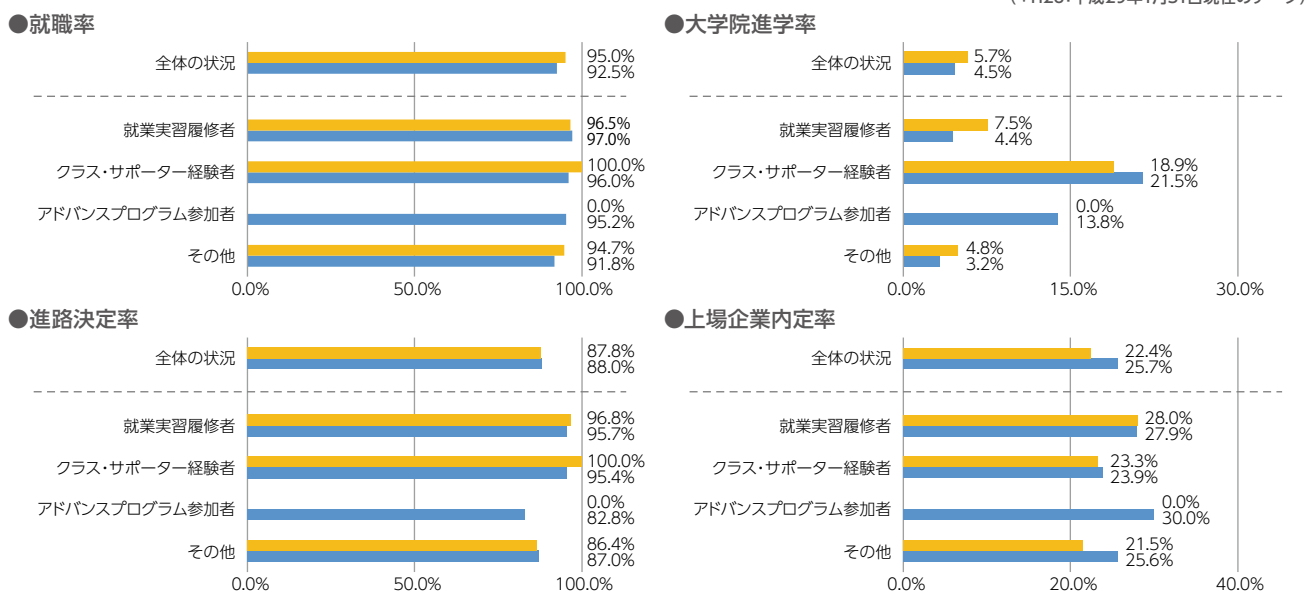
■他大学・企業との連携によるプログラムの充実



就業力育成プログラム参加者の主体的参加意識を醸成

選択科目「就業実習」履修者、課外活動「キャリア形成アドバンスプログラム」参加者、教員補助であるクラスサポーター経験者といった「就業力育成プログラムに積極的な学生群」は、進学、就職両面で好結果を出しています。同プログラムが一定の成果をあげていることの証と言えます。

■就業力育成プログラム履修者の就職活動状況(全体の状況との比較)



▶クラスサポーターとは、授業が円滑に進むように、また、受講する学生の理解が深まるように支援する学生のこです。教員による研修を受講した後に採用されます。

5. 産業界・他大学・地域社会連携の取組

産業界・行政・他大学ネットワークを基盤にして、教育・研究活動成果を産業界・地域社会へ還元することに努めました。

地域社会への貢献は「大学の使命」との認識のもとに、産業界（企業、金融機関等）、自治体、並びに他の大学等と連携して「情報・環境・モノづくり」分野で得られた教育研究成果を積極的に地域社会に還元しています。

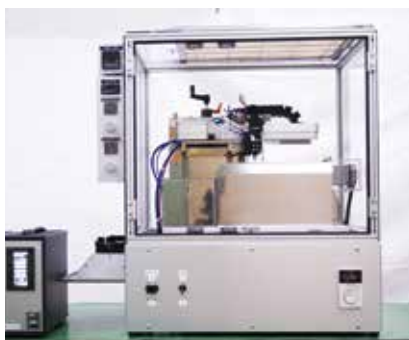
研究力を基盤として、地域課題の解決に向けた協力をさらに積極化

「情報・環境・モノづくり」分野で社会的ニーズの高い研究成果を地域に還元しました。また、知的資源は、企業等へのコンサルティング、地域住民等への講演会・シンポジウム、工業技術研修会の開催等を通じ、積極的に行いました。

■ 研究成果の社会還元



マイクロバブルによる貯水池の大規模浄化



インクジェット方式による塗布装置の開発



古賀市との農業分野における研究協力

学生も学習成果を携えて、地域振興や環境保全など、課題解決に協力

講義や研究での学びを実社会で応用し確実な理解に繋げるとともに、専門技能の習得による社会的意義が自覚できるよう、様々な社会貢献プロジェクトへの積極的な参画を促しています。

■ 地域社会貢献活動の例

① 地域環境の保全



環境サークル(オアシス)

② 教育・文化の振興



古賀市学習支援アシスタント事業

③ 地域課題の解決



地域包括ケアシステム
医工学連携公開講座開催

④ 地域の安心・安全 (防犯、防災)



VR(Virtual Reality)を用いた
幼児用登下校訓練シミュレーターの開発

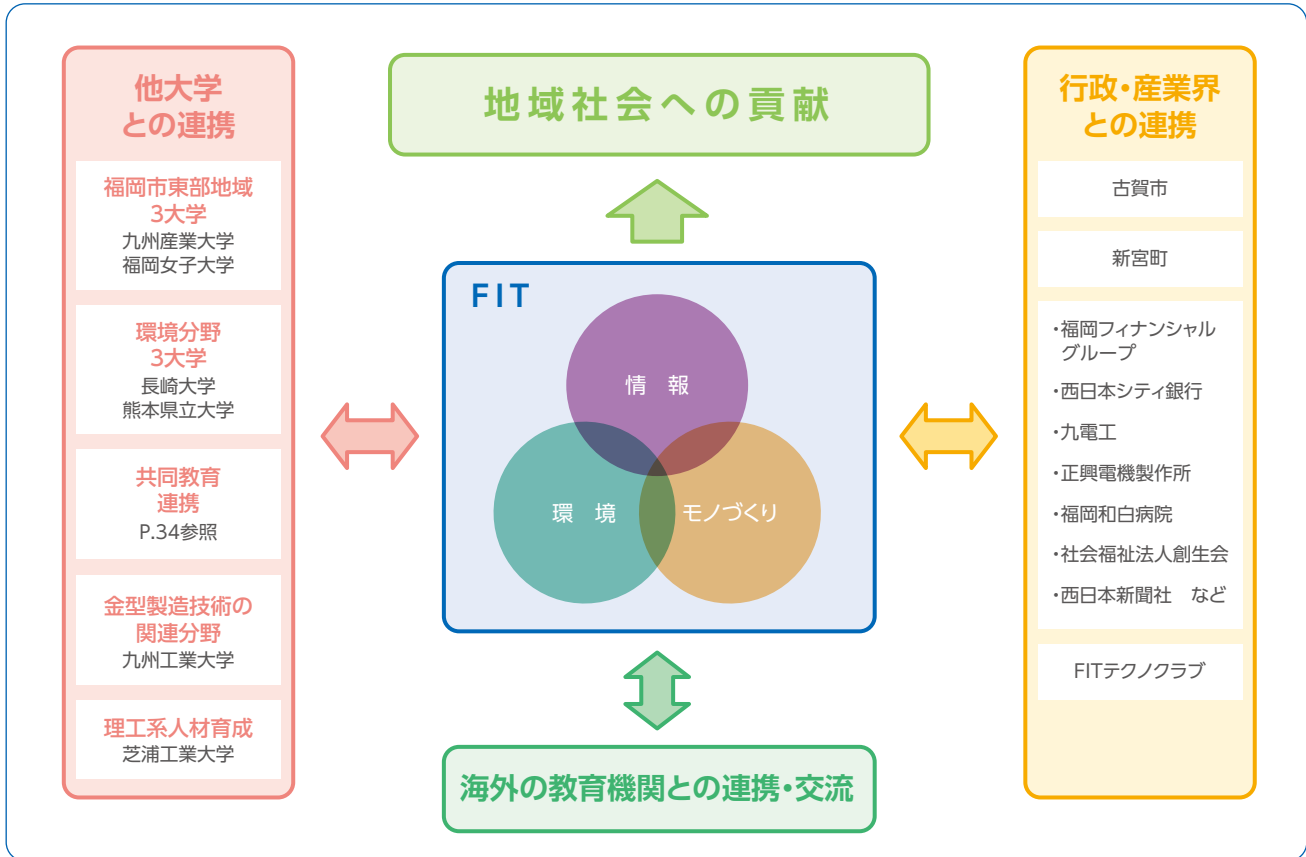
▶ 地域の方々に来校いただく機会を順次、増やしています。

(本学における地域貢献活動の開催件数の推移 26年度:42件、27年度:59件、28年度:63件)

産業界、自治体、他大学等との地域貢献ネットワークを形成

産業の振興、ひいては地域社会の発展に貢献することの重要性から、その役割を確実に果たすため、地元産官学に他大学を加えたネットワークを形成しています。これら外部機関の協力を得ながら、研究高度化や高度人材の育成を通じて、地域貢献に努めています。

■ FIT 地域貢献ネットワーク



■ 他大学・地域社会連携の取組状況



芝浦工業大学との教育・研究等の連携協定を締結 (平成28年10月)



東部地域大学連携 東区委託事業「東部地域大学連携シンポジウム」開催 (平成29年3月)



新宮町(相島) 動画制作プロジェクト (平成28年4～7月)



国公立3大学連携 第3回環境フォーラム開催 (平成28年12月)



医学連携 奈多創生園で吹奏楽コンサートを開催 (平成28年6月)



新宮町旅エンジョイプロジェクト (STEP) のメンバー (学長表彰)

6. グローバル化の取組

国の学術グローバル化政策に沿い、広範なネットワークや国際交流支援体制を整え、国際社会を生き抜く人材育成に努めています。

大学入学から大学院修了までを見据え、教育課程の進度に合わせ、多彩な国際教育プログラムを整えています。この成果をさらに高めるために、国際交流ネットワークの拡大や国際戦略の拠点となるグローバル・スチューデント・ラウンジの機能拡大(英語コミュニケーション能力向上など)を行いました。

6か国16大学との間で学術交流協定を締結し派遣学生を拡大

経済・学術交流のグローバル化に適合するため、米国4大学、オーストラリア1大学、中国4大学、韓国3大学、タイ3大学、アルバニア1大学、計6か国16大学との間で、研究者交流、学生交換プログラム等を活用した派遣・招請を行い、相互交流を活発化させています。特に当年度は、派遣学生を拡大しました。

■ 国際交流ネットワーク



▶ 海外大学との連携協定のもとで、教職員がともに教育研究や大学運営について広い視野と優れた知見を重ね、学園の将来を担う次世代リーダー養成を目的とした研修も行っています(リードプログラム(Lead Program))。

国際戦略の拠点となるグローバル・スチューデント・라운ジの機能を拡大・充実

グローバル・スチューデント・라운ジには、留学・語学・学習相談ブース、並びに教育プログラム開発を行う国際交流サークルスクエア、英会話レッスンエリアを新設しました。英語・中国語会話及び海外事情に精通した専任スタッフやネイティブスタッフ、留学生の日本語教育担当スタッフも配置しています。



国際交流サークルエリア
(留学・語学学習相談、教育プログラム開発を実施)



英会話レッスンの様子
(ネイティブスピーカー 3名を配置)



留学前レッスンの様子

海外企業でのキャリア形成に向けた取組(3件)が国の補助対象事業として選定

米国・シリコンバレー及びサンノゼ、タイ・バンコクで行う国際的キャリア形成支援事業(3件)が、日本学生支援機構(JASSO)の補助事業に採択されました。ここでは、連携大学の学生とともに日系企業の工場見学やインターンシップに参加・従事し、現地業務の学びや外国人コミュニケーションの難しさなどについて学びました。

■日本学生支援事業(JASSO)採択プログラム(海外留学支援制度)の概要

取組名称等	シリコンバレーで学ぶ 大学院キャリア形成プログラム	タイ短期研修2016	ACE (Advanced Culture and Education Program) 2016夏季集中研修
取組概要及び目標	US-JAPAN Forumと複数の国内大学による合同海外研修プログラム。シリコンバレー所在の企業訪問、人生・自己実現目標を認識	協定校であるKMITLの学生とピアとなり、在バンコク日系企業でのインターンシップ、KMITL研究室訪問、学生交流、文化・自然体験を実施	グローバル人材育成を目的とした学長主導のリーダーシップ特別教育プログラム。カリフォルニア州立大学イーストベイ校学生とパートナーを組み、特別講義や異文化交流を通じ主体的に考える力を育成
連携大学	弘前大学、岩手大学、秋田大学、東北大学、新潟大学、筑波大学、千葉大学、東京大学、東京工業大学、東京歯科大学、豊橋技術科学大学、京都大学、岡山大学、島根大学、徳島大学、熊本大学及び本学など	タイ王立キングモンクット工科大学カラバン校	米国サンノゼ州立大学
研修先企業等	Google, Apple, Intel, Anacor Pharmaceuticals, Neuro Sky, Union Bank など	Rohm Integrated Systems, タイ小糸, Siam Music YAMAHA, Furukawa FITEL, 日清紡メカトロニクス、タイ竹中、タイ大塚製薬	
本学の参加者数	1名	12名	10名
取組の様子	 intel 企業訪問	 Rohm Integrated Systems 企業訪問	 チーム対抗アクティビティ (英語による事前研修)

7. キャンパスライフサポートの取組

授業以外の「キャンパスライフ」も重要な学習機会として積極サポート。諸活動が活発化しました。

学生サポートを有効に機能させるために第Ⅲ期施設・設備整備計画を策定・実行しました。自学自習・くつろぎ、クラブ・サークル活動活発化のための機能を強化し、諸活動はさらに活発化しました。

クラブ・サークル活動は重要な学習の機会、学術・文化・スポーツなど多方面に活躍

教室・研究室以外も重要な教育研究のフィールドであり、正規カリキュラム以外のクラブ・サークル活動を積極的にサポートしています。また、経済的事情を抱えた学生への奨学金支援や悩み・問題に対する心理的なカウンセリングを強化しました。

■クラブ・サークルの活動状況



吹奏楽部
第64回全日本吹奏楽コンクール金賞受賞



ラグビー部
第53回全国大学ラグビー選手権ベスト12



アイスホッケー部
九州学生アイスホッケーリーグ2部優勝(1部昇格)



たのしんぐらプロジェクト
新宮町 IT Workoutの活動 グループワークの様子



ビोटープ研究会
長崎大学とのビोटープサークル交流会(鑑察会)の様子



FIT女子会
犯罪防止キャンペーン啓発チラシ配布

■自学自習・くつろぎの様子



本部棟図書館前学習スペース



B棟2階学習スペース



おとめが池テラス



E棟1階学生広場

▶ 優秀な活動成績については学長表彰を行いました。(詳細はP.51「バックデータ集」参照)

修学・日常生活・就職相談・支援のワンストップサービスを実現

新棟(E棟)に学生サポートセンターを設置し、約50人のスタッフでワンストップサービスを行っています。また、キャンパス全域のラーニングcommons化、課外教育施設のリニューアルを進め、快適・利便性が格段に向上しました。



約50人の学生課、教務課、大学院事務室及び就職課スタッフが対応するサポートデスク・カウンター&commons(E棟2階)



就職活動の個別指導の様子



開放性、透明性を重視したガラス張りの教室(C棟1階グループスタディエリア)



くつろぎ・コミュニケーションのためのデッキ(E棟2階学生広場)



コンビニ(セブンイレブン)を設置し充実した学生生活をサポート(B棟1階)



遊歩道&屋外カフェテラス(B棟)

▶ 学生サポートセンターでは、入学～学生生活～進路決定までのサポートを一体的に行います。

キャンパスライフの悩み・問題に対して親身になってカウンセリング・サポート

学業や特技優秀者のいっそうの精励、経済的事由によって修学が困難になった学生の経済支援等、多くの奨学制度を設けています。また、学生の悩み・問題に対して親身になって助言・指導するカウンセリング制度を設けています。

■ 本学独自奨学支援制度の例

1	入試成績の上位者に対し授業料を免除(全額もしくは半額)
2	入学後の学業優秀者に対し授業料を半額免除
3	スポーツ等の優秀者に対し授業料などを免除
4	海外留学費用の全額もしくは一部を免除
5	課外活動(クラブ、サークル)の活動をサポート
6	経済的に就学困難な学生に対し授業料を半額免除
7	働きながら学ぶ学内ワークスタディ支援制度

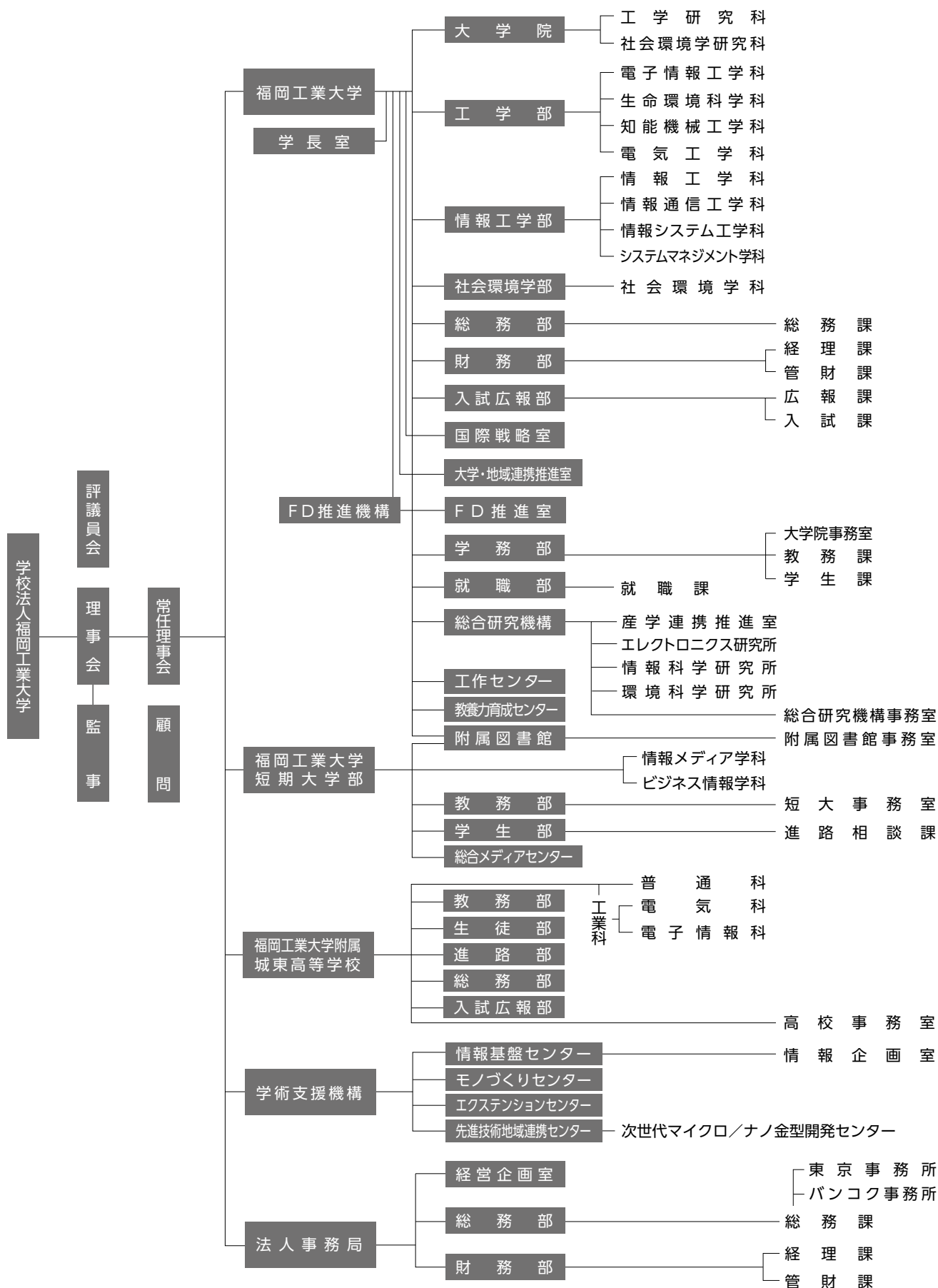


障害学生支援勉強会の様子

■ 学生生活サポートの体制

専門的 学生支援	臨床心理士等専門的相談の体制
	学生生活相談の体制
	進路に関する相談(キャリアサポート)
	健康管理サポート
日常的 修学支援	保護者からの相談サポート
	クラス担任配置によるサポート
	ゼミ等での学習指導
	オフィスアワーの設定
日常的 学生生活支援	学習相談コーナー開設
	学生相互の学び(ピア・レビュー)
	新入生全員面談の実施
	新入生オリエンテーションの実施
	履修・生活相談の随時対応
	女子学生・留学生へのサポート
住居・アルバイトの紹介	

▶ この他、経済的理由により学費納入が困難な場合、一定の範囲で柔軟に延納・分納を認めるなど、学生・ご父母に親身に寄り添う相談・支援体制を構築しています。



役員等の状況

■役員一覧 (平成29年4月1日現在)

職名	氏名	兼職名
理事(理事長)	鷓木 洋二	
理事(常務理事)	大谷 忠彦	
理事	下村 輝夫	大学・短期大学部学長
理事	佐伯 道彦	附属城東高等学校長
理事	山下 剛	事務局長
理事(非常勤)	江頭 公成	
理事(非常勤)	川原 正孝	
理事(非常勤)	園田 勇	
理事(非常勤)	高田 洋征	
理事(非常勤)	森 紀久雄	
理事(非常勤)	小幡 修	
理事(非常勤)	米田 達郎	
監事(非常勤)	吉戒 孝	
監事(非常勤)	中尾 忠徳	

職名	氏名	兼職名
最高顧問	麻生 渡	

役員区分	定数	実数	選任条項別実数※
理事	9~13	12	1号2名、2号2名、3号8名
監事	2~3	2	
評議員	19~27	26	1号4名、2号3名、3号3名、4号16名

※1号理事：学長・校長、同2号：評議員、同3号：学識経験者
1号評議員：学長・校長、同2号：卒業生、同3号：父母、同4号：学識経験者

■部科長一覧 (平成29年4月1日現在)

職名	氏名
工学部長	倪 宝栄
情報工学部長	木室 義彦
社会環境学部長	森山 聡之
工学研究科長	大山 和宏
社会環境学研究科長	李 文忠
学務部長	松尾 敬二
就職部長	上寺 康司
附属図書館長	三田 肇
教養力育成センター長	阿山 光利
情報基盤センター長	若原 俊彦
総合研究機構長	田中 秀司
モノづくりセンター長	河村 良行
エクステンションセンター長	若原 俊彦
入試広報部長	宋 宇

職名	氏名
電子情報工学科長	片山 龍一
生命環境科学科長	北山 幹人
知能機械工学科長	朱 世杰
電気工学科長	北川 二郎
情報工学科長	山澤 一誠
情報通信工学科長	前田 洋
情報システム工学科長	徳安 達士
システムマネジメント学科長	赤木 文男
社会環境学科長	中川 智治
エレクトロニクス研究所長	数仲 馬恋典
情報科学研究所長	福本 誠
環境科学研究所長	中川 智治
産学連携推進室長	田中 秀司

設置学部・学科/専攻概要

設置校	学部・研究科名	学科名	設置コース	教育研究上の目的	
大学	工学部	電子情報工学科		現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。	
		生命環境科学科	生命環境科学基盤コース 生命環境科学アドバンスコース	地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物学的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した物質系・生物系技術者の人材の養成を目的とする。	
		知能機械工学科		情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。	
		電気工学科	電気総合エンジニアコース 電気開発エンジニアコース	日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。	
	情報工学科	情報工学科		コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システム LSI などの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。	
		情報通信工学科		今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。	
		情報システム工学科	情報システム設計コース 情報システム技術コース (JABEE認定)	今日まで発展を遂げてきた情報技術が社会的基盤となり、人々の暮らしを支える情報システムのサービス形態は、変化・適用・深化を繰り返しながらこれからも発展し続けていくことが予想される。本学科では、情報技術、ロボット制御、生体システムを柱とする実践的教育を展開し、技術者倫理、コミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力を身につけることで、社会の持続的発展に不可欠な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者の養成を目的とする。	
		システムマネジメント学科		高度に情報化、国際化が進む現代社会において、企業の生産管理技術と情報管理技術について、経営、生産、メディアの観点から基礎的な素養を身につける教育を行い、それらの知識に裏付けされた人間哲学に基づいてシステムのマネジメントを行える人材の養成を目的とする。	
	社会環境学部	社会環境学科		環境に関わる諸問題に関して主として社会科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。	
	大学院	工学研究科	物質生産システム工学専攻 (博士後期課程)		物質生産システム工学専攻は、電子物性工学、機能材料応用工学、エネルギーシステム工学及び設計生産システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。
			知能情報システム工学専攻 (博士後期課程)		知能情報システム工学専攻は、知能情報工学、情報伝送工学、知的メディア工学及び情報制御システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。
			電子情報工学専攻		現代社会は、コンピュータを先頭とした電子情報技術が著しく発達し、広く普及している社会である。本専攻では、広い視野に立って、電子情報工学の理論及び応用を教授、研究し、高度な専門知識を背景に、独創的な研究開発能力を身につけた技術者を養成することを目的とする。
			生命環境科学専攻		本学の建学の綱領に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、科学技術や社会の進歩向上に寄与する人材を育成することを目的とする。具体的に本専攻では、広い視野に立って精深な学識を授け、物質工学及び生物工学を中心とした専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。
知能機械工学専攻				機械工学は、ナノ・マイクロテクノロジーから巨大システムまで基盤となる技術を開拓していく学問分野です。機械工学はそれ自身の高度化、先進化及び微細化とともに電子情報技術の飛躍的な発達により機械の知能化が進んでいます。本専攻では機械工学の基礎分野の知識を十分修得した上で、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	
電気工学専攻				本専攻は電気系工学・技術の分野において活躍できる、高度の問題解決能力と研究開発能力を備えた技術者を育成することを教育の目的とする。このため工学部電気系学科修了課程の基礎知識を有する学生を対象に、進歩を続ける技術に長期的に対応して行けるよう電気関連主要分野の深い基礎理論を講究するとともに、並行してこの分野の先端的研究テーマについての研究に取り組み創造的対応能力を培う。	
情報工学専攻				人工知能や集積回路、マルチメディアや画像処理、データベースやソフトウェア開発などの情報工学分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	
情報通信工学専攻				携帯電話や無線 LAN、光ファイバ伝送などの情報伝送技術やインターネットなどの情報ネットワークの分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	
情報システム工学専攻				情報システム工学専攻は、少子高齢化社会で求められる様々な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者として求められる高度な学識と研究方法を習得し、情報社会の発展に役立つ研究課題を自ら探求して解決する能力を備えた人材の育成を目的とする。	
システムマネジメント学専攻				システムマネジメント専攻は、経営、生産、情報メディアシステムに対して調査・分析・設計・評価に必要な工学的な諸手法について教授し、これらのシステムから得られる情報を有効に利用してシステムを構築・解析・最適化する能力を備えた人材の育成を目的とし、教育研究を行う。	
社会環境学			社会環境学専攻		環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを研究する能力を醸成した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる高度な専門性が求められる職業を担うための能力を培うことを目的とする。
短大	短期大学部	情報メディア学科		ビジネス情報学科は、人間性・協調性豊かで、進化する IT 技術を活用できる人材の養成を目的として、社会人及び職業人として必要な自然科学および人文科学の教養およびコミュニケーション能力を育成し、併せてコンピュータや情報メディアに関する実践的な取り扱い方、プログラミング能力などを育成している。	
		ビジネス情報学科		ビジネス情報学科は、人間性・協調性豊かで、進化する IT 技術を活用できる人材の養成を目的として、社会人及び職業人として必要な自然科学および人文科学の教養およびコミュニケーション能力を育成し、併せてコンピュータや情報メディアに関する実践的な取り扱い方、プログラミング能力などを育成している。	

資格について ○/所定の単位取得により、在学中または卒業と同時に取得できる資格
 ●/所定の単位取得により、実務経験を経て取得
 ○/指定科目の単位を取得すると、資格試験の一部が免除
 □/全学的に支援・支援講座を行っている資格 (エクステンションセンター主催)
 ■/各学科で支援・支援講座を行っている資格
 ☆/国家資格

教員構成(人)※	取得可能学位	取得可能な教員免許	取得支援を実施している資格※
教授 10 准教授 1 助教 3	学士 (工学)	高等学校教諭一種免許状(工業)	<ul style="list-style-type: none"> ■/☆第一級陸上特殊無線技士 ■/☆第一級陸上無線技術士 ■/☆ITパスポート ■/□/☆基本情報技術者試験
教授 7 准教授 6 助教 1		高等学校教諭一種免許状(工業、理科) 中学校教諭一種免許状(理科)	<ul style="list-style-type: none"> ○/☆食品衛生管理者、食品衛生監視員 ○/☆毒物劇物取扱責任者 ○/☆公害防止管理者(水質) ○/☆危険物取扱者(甲・乙) ○/☆環境計量士 ■環境測定分析士 ■バイオ技術者認定 ■eco検定(環境社会検定試験) □/☆情報セキュリティマネジメント □/☆基本情報技術者試験
教授 9 准教授 5 助教 3		高等学校教諭一種免許状(工業)	<ul style="list-style-type: none"> ○修習技術者(→技術士補) ■/☆機械保全技能検定 ■CAD利用技術者 ■機械設計技術者 □/☆情報セキュリティマネジメント □/☆基本情報技術者試験 □TOEIC □MOS (Microsoft Office Specialist)
教授 5 准教授 3 助教 5		高等学校教諭一種免許状(工業)	<ul style="list-style-type: none"> ●/■/☆電気主任技術者(第1種、第2種、第3種) ■/☆電気工事士 □/☆情報セキュリティマネジメント □/☆基本情報技術者試験 □TOEIC □MOS (Microsoft Office Specialist) □Webクリエイター能力認定試験 □日商簿記検定2級・3級 □リテールマーケティング(販売士)検定2級
教授 10 准教授 5 助教 1 講師 4	学士 (情報工学)	高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	<ul style="list-style-type: none"> ■/☆ITパスポート ■/□/☆基本情報技術者試験 ■/□/☆情報セキュリティマネジメント ■LPIC (Linux技術者認定試験) ■CCNA (Cisco Certified Network Associate) □TOEIC □MOS (Microsoft Office Specialist) □Webクリエイター能力認定試験
教授 9 准教授 5		高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	<ul style="list-style-type: none"> ○/☆第一級陸上特殊無線技士 ○/☆海上特殊無線技士(第二級、第三級) ○/☆第一級陸上無線技術士 ○/■/☆電気通信主任技術者(伝送交換主任技術者、線路主任技術者) ○/■/☆工事担当者(ネットワーク接続技術者) ■ネットワークスペシャリスト □リテールマーケティング(販売士)検定2級 □TOEIC □MOS (Microsoft Office Specialist) □Webクリエイター能力認定試験
教授 5 准教授 5 助教 2 講師 2		高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	<ul style="list-style-type: none"> ○修習技術者(→技術士補) ■/☆ITパスポート ■/□/☆基本情報技術者試験 ■LPIC (Linux技術者認定試験) ■CCNA (Cisco Certified Network Associate) ■/□MOS (Microsoft Office Specialist) □/☆情報セキュリティマネジメント □TOEIC □Webクリエイター能力認定試験 □日商簿記検定2級・3級 □リテールマーケティング(販売士)検定2級
教授 4 准教授 4 助教 2		高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	<ul style="list-style-type: none"> ■/☆ITパスポート ■/□/☆基本情報技術者試験 ■LPIC (Linux技術者認定試験) ■CCNA (Cisco Certified Network Associate) ■CGクリエイター検定 ■DTPエキスパート □TOEIC □Webクリエイター能力認定試験 □日商簿記検定2級・3級 □リテールマーケティング(販売士)検定2級
教授 15 准教授 8 助教 3	学士 (社会環境学)	高等学校教諭一種免許状(公民) 中学校教諭一種免許状(社会)	<ul style="list-style-type: none"> ■eco検定(環境社会検定試験) ■環境管理士 ■ピオトップ管理士 ■3R・低炭素社会検定 ■/□MOS (Microsoft Office Specialist) ■/□日商簿記検定2級・3級 ■/□リテールマーケティング(販売士)検定2級 □/☆情報セキュリティマネジメント □TOEIC □Webクリエイター能力認定試験
教授 20 准教授 2	博士 (工学)		
教授 18 准教授 3			
教授 8 准教授 2 助教 1	修士 (工学)	高等学校教諭専修免許状(工業)	
教授 7 准教授 6 助教 1		高等学校教諭専修免許状(理科) 中学校教諭専修免許状(理科)	
教授 9 准教授 3		高等学校教諭専修免許状(工業)	
教授 5 准教授 2 助教 4		高等学校教諭専修免許状(工業)	
教授 9 准教授 4 助教 1		高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)	
教授 9 准教授 5		高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)	
教授 5 准教授 5 助教 1 講師 2		高等学校教諭専修免許状(情報)	
教授 4 准教授 4 助教 1		高等学校教諭専修免許状(情報)	
教授 7 准教授 5	修士 (社会環境学)		
教授 5 准教授 3 助教 1	短期大学士		<ul style="list-style-type: none"> ■/☆基本情報技術者試験 ■/☆応用情報技術者試験 ■/☆ITパスポート ■秘書技能検定 ■日商PC検定 ■建築CAD検定 ■CAD利用者技術者試験 ■TOEIC ■実用英語技能検定 ■色彩検定 ■診療報酬請求事務能力認定試験 ■CGエンジニア検定 ■マルチメディア検定 ■日本漢字能力検定 ■日商簿記検定 ■全国経理教育協会簿記検定 ■福祉住環境コーディネータ ■CGクリエイター検定 ■Webデザイナー検定 ■ドットコムマスター
教授 2 准教授 4			

※平成29年4月1日現在

教職員数

■教員数 (平成29年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学									福岡工業大学短期大学部					
	工学部			情報工学部			社会環境学部			情報メディア学科			ビジネス情報学科		
学部・学科名	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
男女別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教授	31	0	31	26	1	27	14	1	15	5	0	5	2	0	2
准教授	13	2	15	20	0	20	5	3	8	3	0	3	2	2	4
講師	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助教	9	3	12	7	1	8	2	1	3	1	0	1	0	0	0
合計	53	5	58	56	2	58	21	5	26	9	0	9	4	2	6

■職員数 (平成29年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学			福岡工業大学短期大学部		
	男	女	計	男	女	計
専任職員	62	13	75	2	2	4
嘱託職員	11	42	53	0	5	5
契約・派遣職員	1	27	28	0	0	0
合計	74	82	156	2	7	9

■年齢区分別 教員数 (平成29年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学									福岡工業大学短期大学部					
	工学部			情報工学部			社会環境学部			情報メディア学科			ビジネス情報学科		
学部・学科名	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
男女別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
29歳以下	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30歳～39歳	11	4	15	11	0	11	3	3	6	1	0	1	1	0	1
40歳～49歳	15	1	16	20	0	20	9	2	11	3	0	3	1	2	3
50歳～59歳	15	0	15	14	1	15	5	0	5	4	0	4	1	0	1
60歳～69歳	11	0	11	10	0	10	4	0	4	1	0	1	1	0	1
70歳以上	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	53	5	58	56	2	58	21	5	26	9	0	9	4	2	6

■専任教員・非常勤教員比率 (平成29年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学									福岡工業大学短期大学部					
	工学部			情報工学部			社会環境学部			情報メディア学科			ビジネス情報学科		
学部・学科名	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
専任教員	53	5	58	56	2	58	21	5	26	9	0	9	4	2	6
(比率・%)	47.3%	31.3%	45.3%	54.9%	14.3%	50.0%	63.6%	45.5%	59.1%	52.9%	0.0%	47.4%	50.0%	28.6%	40.0%
非常勤教員	59	11	70	46	12	58	12	6	18	8	2	10	4	5	9
(比率・%)	52.7%	68.8%	54.7%	45.1%	85.7%	50.0%	36.4%	54.5%	40.9%	47.1%	100.0%	52.6%	50.0%	71.4%	60.0%
合計	112	16	128	102	14	116	33	11	44	17	2	19	8	7	15
(比率・%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

平成28年度学位授与数

■学士・短期大学士授与数

学部等名	授与数
工学部	339
情報工学部	398
社会環境学部	174
短期大学部	151

■博士・修士授与数

研究科名	修士授与数	博士授与数
工学研究科	45	1
社会環境学研究科	3	-

■JABEEコース修了者数

コース名	修了者数
知能機械創成コース (知能機械工学科)	25
情報通信先端工学コース (情報通信工学科)	17
情報システム技術コース (情報システム工学科)	2

学生数

■大学、短期大学部在籍学生数 (各年5月1日現在)

学部	学科	平成28年度						平成29年度		
		定員	現員	定員充足率	留年者数	退学・除籍者数	中退率	定員	現員	定員充足率
工学部	電子情報工学科	340	411	1.21	41	18	0.04	350	413	1.18
	生命環境科学科	340	386	1.14	40	12	0.03	350	407	1.16
	知能機械工学科	420	489	1.16	40	31	0.06	430	487	1.13
	電気工学科	340	404	1.19	52	25	0.06	350	402	1.15
	合計	1,440	1,690	1.17	173	86	0.05	1,480	1,709	1.15
情報工学部	情報工学科	500	609	1.22	30	10	0.02	510	621	1.22
	情報通信工学科	340	430	1.26	45	17	0.04	350	424	1.21
	情報システム工学科	340	424	1.25	34	5	0.01	350	432	1.23
	システムマネジメント学科	250	312	1.25	18	7	0.02	255	320	1.25
	合計	1,430	1,775	1.24	127	39	0.02	1,465	1,797	1.23
社会環境学部	社会環境学科	680	773	1.14	51	21	0.03	690	793	1.15
大学院	工学研究科(修士)	122	113	0.93	0	5	0.04	128	113	0.88
	工学研究科(博士)	12	10	0.83	0	0	0.00	12	15	1.25
	社会環境学研究科	12	7	0.58	0	0	0.00	12	9	0.75
	合計	146	130	0.89	0	5	0.04	152	137	0.90
福岡工業大学・大学院合計		3,696	4,368	1.18	351	151	0.03	3,787	4,436	1.17
短期大学部	情報メディア学科	210	262	1.25	28	25	0.10	210	264	1.26
	ビジネス情報学科	110	127	1.15	6	5	0.04	110	134	1.22
	福岡工業大学短期大学部合計	320	389	1.22	34	30	0.08	320	398	1.24

■高等学校在籍生徒数 (各年5月1日現在)

課程	平成28年度			平成29年度		
	定員	現員	定員充足率	定員	現員	定員充足率
普通科	1,050	1,448	1.38	1,050	1,488	1.42
電気科・電子情報科	600	611	1.02	600	626	1.04
福岡工業大学附属城東高等学校合計	1,650	2,059	1.25	1,650	2,114	1.28

■国別留学生数 (平成28年5月1日現在)

	中国	韓国	タイ	ベトナム	ネパール	トンガ	アルバニア
大学	27	0	4	0	0	1	0
短期大学部	1	0	0	0	1	0	0
大学院	37	1	6	1	0	0	1
研究生	2	0	0	0	0	0	0
科目等履修生	5	1	3	0	0	0	0
合計	72	2	13	1	1	1	1

平成29年度入試状況

■大学

学部	学科	定員	特別推薦※1			一般推薦			一般A方式			一般C方式※2			留学生			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学部	電子情報工学科	90	19	19	19	31	27	18	220	137	45	738	313	19	1	1	1	1,009	497	102
	生命環境科学科	90	20	20	20	30	23	17	231	116	35	690	332	37	1	1	0	972	492	109
	知能機械工学科	110	29	29	29	53	41	29	383	164	50	769	280	23	3	2	1	1,237	516	132
	電気工学科	90	39	39	39	35	10	7	254	131	33	645	276	21	0	0	0	973	456	100
	学部合計	380	107	107	107	149	101	71	1,088	548	163	2,842	1,201	100	5	4	2	4,191	1,961	443
情報工学部	情報工学科	130	63	62	62	75	23	18	393	175	55	906	220	20	1	0	0	1,438	480	155
	情報通信工学科	90	25	25	25	38	31	24	134	62	38	675	228	12	1	1	0	873	347	99
	情報システム工学科	90	31	29	29	40	28	21	293	129	33	844	268	17	0	0	0	1,208	454	100
	システムマネジメント学科	65	19	17	17	18	17	15	87	44	17	643	320	33	1	1	0	768	399	82
	学部合計	375	138	133	133	171	99	78	907	410	143	3,068	1,036	82	3	2	0	4,287	1,680	436
社会環境学部	社会環境学科	160	101	98	98	48	30	25	167	86	49	769	233	21	1	1	1	1,086	448	194
合計		915	346	338	338	368	230	174	2,162	1,044	355	6,679	2,470	203	9	7	3	9,564	4,089	1,073

※1 前期入試、後期入試の合計 ※2 前期入試、中期入試、後期入試、センター併用入試の合計

■大学(編入学)

学部	学科	定員※	志願者	合格者	入学者
工学部	電子情報工学科	-	2	1	1
	生命環境科学科	-	0	0	0
	知能機械工学科	-	0	0	0
	電気工学科	-	2	1	0
	学部合計	-	4	2	1
情報工学部	情報工学科	-	16	10	10
	情報通信工学科	-	3	1	0
	情報システム工学科	-	14	10	9
	システムマネジメント学科	-	7	5	4
	学部合計	-	40	26	23
社会環境学部	社会環境学科	30	40	22	21
合計		-	84	50	45

※工学部、情報工学部は定員未設定

■大学院

研究科	専攻	定員	一般※1			協定校※2			外国人※3			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学研究科	電子情報工学専攻	8	5	5	4	5	5	4	0	0	0	10	10	8
	生命環境科学専攻	8	6	5	3	2	2	2	1	1	1	9	8	6
	知能機械工学専攻	8	5	5	5	3	3	3	1	1	1	9	9	9
	電気工学専攻	8	4	4	4	2	2	2	0	0	0	6	6	6
	情報工学専攻	10	3	3	3	1	1	1	1	1	1	5	5	5
	情報通信工学専攻	8	8	8	7	0	0	0	0	0	0	8	8	7
	情報システム工学専攻	8	5	5	4	0	0	0	0	0	0	5	5	4
	システムマネジメント専攻	6	3	3	2	3	3	3	0	0	0	6	6	5
	工学研究科合計	64	39	38	32	16	16	15	3	3	3	58	57	50
社会環境学研究科	社会環境学専攻	6	2	2	2	2	2	1	3	2	2	7	6	5
修士課程合計		70	41	40	34	18	18	16	6	5	5	65	63	55
工学研究科(博士後期課程)	物質生産システム工学専攻	2	1	1	1	1	1	1	0	0	0	2	2	2
	知能情報システム工学専攻	2	3	3	3	1	1	0	1	1	1	5	5	4
博士後期課程合計		4	4	4	4	2	2	1	1	1	1	7	7	6

※1 推薦入試、一次・二次入試の合計 ※2 キングモンクット工科大学(タイ)、南京理工大学(中国)、青島科技大学(中国) ※3 一次・二次入試の合計

■短期大学部

学科	定員	特別推薦※1			一般推薦※2			自己推薦対話型			一般※3			一般C方式※4			留学生			合計		
		志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
情報メディア学科	105	38	38	38	23	23	16	20	20	20	129	82	50	184	66	2	2	2	0	396	231	126
ビジネス情報学科	55	25	25	25	4	4	3	12	12	12	55	49	21	173	76	3	4	3	3	273	169	67
合計	160	63	63	63	27	27	19	32	32	32	184	131	71	357	142	5	6	5	3	669	400	193

※1 附属校・指定校推薦入試の合計 ※2 A・B入試の合計 ※3 一期A・B、二期入試の合計 ※4 前期・後期入試の合計

平成29年度学費・徴収金

■大学院

(単位:円)

研究科	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学災保険料※	合計
工学研究科 (修士課程)	1年次	150,000	520,000	170,000	62,000	20,000	-	1,750	923,750
	2年次以降	-	520,000	170,000	62,000	20,000	-	-	772,000
工学研究科 (博士後期課程)	1年次	150,000	520,000	170,000	62,000	20,000	-	2,600	924,600
	2年次以降	-	520,000	170,000	62,000	20,000	-	-	772,000
社会環境学研究科	1年次	150,000	460,000	120,000	-	20,000	-	1,750	751,750
	2年次以降	-	460,000	120,000	-	20,000	-	-	600,000

※秋季入学生の学生教育研究災害傷害保険料：修士課程2,600円、博士後期課程3,300円

部分は前・後期分納 教科書代が別途必要

■大学

(単位:円)

学部	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
工学部・情報工学部	1年次	200,000	830,000	270,000	88,000	10,000	19,000	61,300	1,478,300
	2年次以降	-	830,000	270,000	88,000	10,000	19,000	-	1,217,000
社会環境学部	1年次	200,000	670,000	170,000	-	10,000	19,000	61,300	1,130,300
	2年次以降	-	670,000	170,000	-	10,000	19,000	-	869,000

※学生諸費の内訳：学生自治会費28,000円、後援会費20,000円、学生教育研究災害傷害保険料3,300円、アルバム代10,000円

部分は前・後期分納 教科書代が別途必要

■短期大学部

(単位:円)

学科	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
情報メディア学科	1年次	170,000	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	27,750	1,065,750
	2年次以降	-	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	-	868,000
ビジネス情報学科	1年次	170,000	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	27,750	1,065,750
	2年次以降	-	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	-	868,000

※学生諸費の内訳：学生自治会費10,000円、後援会費6,000円、学生教育研究災害傷害保険料1,750円、アルバム代10,000円

部分は前・後期分納 教科書代が別途必要

■高校

(単位:円)

課程	学年	入学申込金	施設設備費	授業料	施設維持費	実習費	図書費	教育充実費	諸会費・積立金※	合計
普通科	1年次	40,000	190,000	300,000	78,000	-	3,600	48,000	114,000	773,600
	2年次以降	-	-	300,000	78,000	-	3,600	48,000	114,000	543,600
電気科・電子情報科	1年次	40,000	190,000	300,000	78,000	12,000	3,600	48,000	114,000	785,600
	2年次以降	-	-	300,000	78,000	12,000	3,600	48,000	114,000	555,600

※諸会費・積立金の内訳：生徒会費12,000円、同窓会費1,200円、PTA会費16,800円、積立金84,000円

積立金は、1年次4月～2年次11月は修学旅行積立金として、2年次12月～2年次3月は卒業積立金として徴収。3年次は徴収しない。

その他の費用 PTA入会費：10,000円(入学年度のみ)、学年予納金：普通科43,000円、電気科・電子情報科45,800円(各年度)

部分は12か月分納 教科書代が別途必要

卒業・修了生累計、同窓会員数

■卒業・修了生累計

51,917名 (平成29年3月31日現在)

学部 39,048名
大学院 1,365名
短大部 11,504名

■地域別同窓会会員数 (平成29年2月28日現在)

地域名	会員数	地域名	会員数
北海道・東北	9	中国	3,097
関東	826	四国	1,190
東海	307	九州・沖縄	21,418
関西・北陸	715	合計	27,562

平成28年度進路状況 平成29年3月卒業生

■大学

学部名	学科名	卒業生数	就職希望者数	就職内定者数	大学院進学者数	就職率
工学部	電子情報	82	77	77	5	100.0%
	生命環境	76	70	70	4	100.0%
	知能機械	103	98	98	5	100.0%
	電気	77	71	71	4	100.0%
	学部合計	338	316	316	18	100.0%
情報工学部	情報	142	128	127	4	99.2%
	情報通信	87	78	78	7	100.0%
	情報システム	94	88	87	5	98.9%
	システムマネジメント	70	66	66	2	100.0%
	学部合計	393	360	358	18	99.4%
社会環境学部	社会環境	172	161	161	1	100.0%
大学合計		903	837	835	37	99.8%

※前期卒業者を除く

■大学院修士課程

専攻名	修了者数	就職希望者数	就職内定者数	進学者数	就職率
電子情報	6	4	4	0	100.0%
生命環境	6	5	5	1	100.0%
知能機械	10	10	10	0	100.0%
電気	4	4	4	0	100.0%
情報	2	2	2	0	100.0%
情報通信	6	4	4	0	100.0%
管理	5	3	3	2	100.0%
社会環境	1	1	1	0	100.0%
大学院合計	40	33	33	3	100.0%

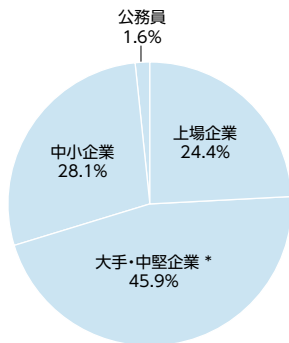
※前期卒業者を除く

■短期大学部

専攻名	卒業生数	就職希望者数	就職内定者数	進学者数	就職率
情報メディア	99	35	35	47	100.0%
ビジネス情報	52	29	29	20	100.0%
短大合計	151	64	64	67	100.0%

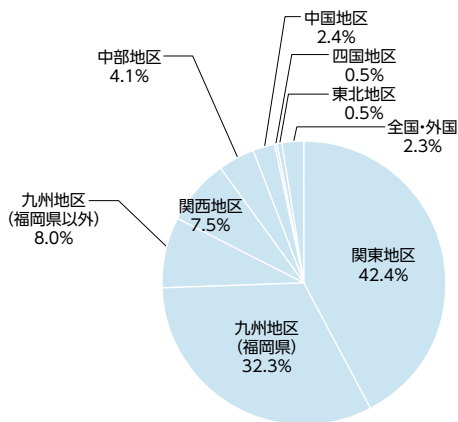
主要就職先 平成29年3月卒業生

■大学・企業規模別



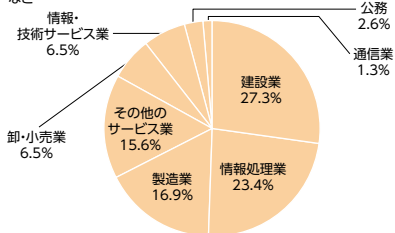
* 大手・中堅企業は、資本金3億円以上または従業員数300名以上

■大学・地区別



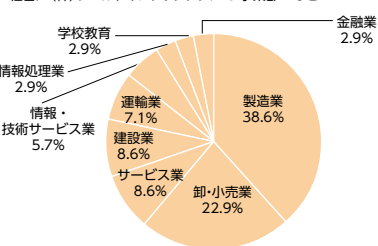
電子情報工学科

(株)協和エクシオ / 日本電技(株) / (株)きんでん / 住友電設(株) / (株)サンケン・エンジニアリング / (株)菱熱 / 千代田計装(株) / (株)富士ビー・エス / (株)ゼンリン / オークマ(株) / (株)ティ・アイ・エス / (株)遠藤照明 / ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株) / (株)ケーヒン / 長崎キャノン(株) / 大王製紙(株) / (株)Minorityソリューションズ / パイプHD(株) / 日本オフィス・システム(株) / (株)セラク / ジェイエムテクノロジ(株) / シスメックスCNA(株) / Gcomホールディングス(株) / (株)九州ソフタス / 日本放送協会(NHK) / 東京エレクトロニクス(株) / (株)立花エレクトック / (株)九州フジパン / 山口日産自動車(株) / トヨタコロラ博多(株) / 矢部川浄水管理 / (株)トラスト・テック / (株)ジェイテック / 自衛隊など



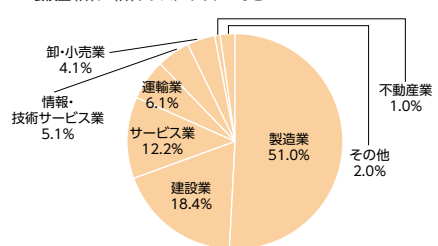
生命環境科学科

東芝プラントシステム(株) / 西日本プラント工業(株) / (株)高田工業所 / (株)ミゾタ / リョーユーパングループ / (株)フランソア / 鳥越製粉(株) / (有)ふく太郎本部 / (株)もち吉 / (株)九十九島グループ / 新興プランテック(株) / 日進化学(株) / (株)再春製薬所 / 演田重工(株) / 西川ゴム工業(株) / ユニバス情報システム(株) / 山九(株) / 日本郵便(株) / (株)サイイ引越センター / (株)OSGコーポレーション / 正晃(株) / イワタニ九州(株) / ホンザキ北九州(株) / (株)丸菱 / (株)ペルーナ / (株)ゼンショーホールディングス / ロイヤルホールディングス(株) / (株)コスモス薬品 / イオン九州(株) / (株)佐賀銀行 / 佐賀信用金庫 / 山口県立宇部工業高等学校 / エフコープ生活協同組合 / (株)ワールドインテックテクノ・SI事業部 など



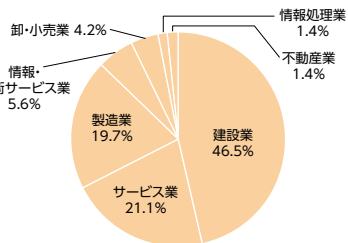
知能機械工学科

高砂熱工業(株) / 東芝プラントシステム(株) / 日本空調サービス(株) / (株)きんでん / (株)九電工 / (株)神戸製鋼所高砂製作所 / (株)フジコー / 長崎製電テクニカ(株) / 前澤工業(株) / 酒井重工業(株) / SMC(株) / 新晃工業(株) / (株)ツバキ・ナカシマ / (株)タムラ製作所 / (株)遠藤照明 / (株)エヌ・エフ・ティ / (株)三井ハイテック / ローム・アポロ(株) / 本田技研工業(株) / スズキ(株) / (株)トヨタプロダクションエンジニアリング / (株)ジェイアール西日本新幹線テクノス / 九州小島(株) / ミツミ電機(株) / 長崎キャノン(株) / 大分キャノン(株) / 大王製紙(株) / 三和シャッター工業(株) / (株)アクタ / 山九(株) / 西濃運輸(株) / 西日本旅客鉄道(株) / 九州旅客鉄道(株) / 東亜非破壊検査(株) / (株)トラスト・テック など



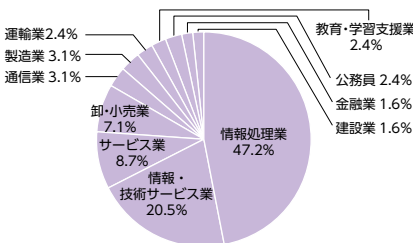
電気工学科

(株)関電工/日本電設工業(株)/日本コムシス(株)/(株)きんでん(株)中電工(株)九電/西部電気工業(株)/千代田計装(株)/山本設備工業(株)/(株)九建/(株)サン電工社/大橋エンジニアリング(株)/九州電気システム(株)/第一施設工業(株)/西日本発電機(株)/富士電機(株)/(株)ケーヒン/小糸九州(株)/富士通(株)/(株)石井工作研究所/大分キャノン(株)/(株)サガシキ/(株)エフティグループ/キャノンシステムアンドサポート(株)/(株)ドーフテクノ/(株)駅前不動産/(株)日立ビルシステム/エスイー・シー・エレベーター(株)/三菱電機ビルテクノ/サービス(株)/イオンディライト(株)/(株)日立プラントメカニクス/JR九州メンテナンス(株)/(一財)九州電気保安協会/(株)アルプス技研 など



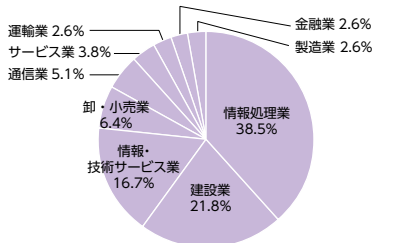
情報工学科

(株)SYSKEN/丸東産業(株)/サイバーコム(株)/(株)NSD/(株)日立システムズ(株)/Minorityソリューションズ/NECフィールディング(株)/GMOベビオ(株)/(株)センソ情報システムズ/(株)ラック/(株)ソルグシステム/(株)ワークスアプリケーションズ/(株)システムソフト/(株)イーサポート福岡本店/日本通運(株)/福岡合同青果(株)/(株)ベルパーフ/福岡コベット(株)/ダイワックス(株)/(株)福岡銀行/西日本シティ銀行(株)/ハウステンボス(株)/学校法人立花学園立花高等学校/福岡県立嘉穂総合高等学校/佐賀県立福壽小学校/GMOクラウド(株)/(株)トラスト・テック/WDB工学(株)/UTグループ(株)/(株)アルプス技研/(株)ワールドインテックテクノ/SI事業部/警視庁/甘ホ・朝倉消防本部/みやき町役場 など



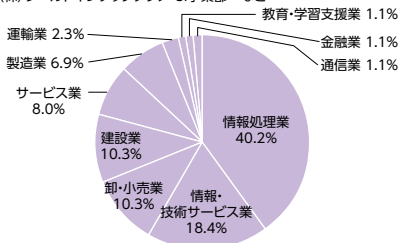
情報通信工学科

サンワコムシステムエンジニアリング(株)/(株)協和エクスオ/(株)ミライト/(株)ミライト・テック/ロジーズ/日本コムシス(株)/(株)サンテック/西部電気工業(株)/(株)SYSKEN/長崎キャノン(株)/ネットワンシステムズ(株)/(株)シーシーシー/(株)センソ情報システムズ/日本コンピュータ・ダイナミクス(株)/九州INSソリューションズ(株)/西部ガス情報システム(株)/(株)エニセンス/(株)アットイパス/(株)バイオ・ソフトウェア/システムラボラトリー(株)/(株)日本ビジネスソフト/(株)アラタナ/(株)IBUKI/日米電子(株)/エコー電子工業株/コネクシオ(株)/ネット・エクス・ジャパン(株)/日本郵政グループ/(株)鹿児島銀行/(株)アイユー・コーポレーション/(株)アルプス技研/(株)アソフ・アルファ/(株)アスパーブ福岡オフィス など



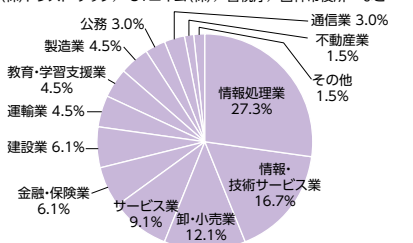
情報システム工学科

太平電業(株)/(株)九電工/(株)富士ピー・エス/(株)正興電機製作所/ホシデン九州(株)/(株)コア九州カンパニー/(株)ソルクシーズ/(株)エスト/(株)アルファシステムズ/(株)ハイマックス/(株)富士通九州システムサービス/ユニティ・ソフト(株)/(株)エクシード/(株)サンレイズ/グローバルプレインズ(株)/(株)ヒューマンテクノシステムホールディングス/SCSK九州(株)/(株)ハウインターナショナル/名村情報システム(株)/(株)日本ビジネスソフト/(株)九州テン/日本郵便(株)/アプライド(株)/九州三菱電機販売(株)/(株)マルキョウ/(株)コスモ薬局/福岡県立八女工業高等学校/西日本映像(株)/WDB工学(株)/(株)アルプス技研/(株)日本テグシード/(株)ワールドインテックテクノ/SI事業部 など



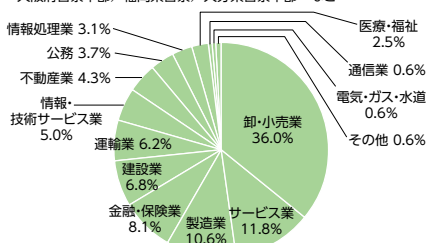
システムマネジメント学科

ダイケンHVACソリューション九州(株)/(株)オリエンタル・ホーム/協栄工業(株)/(株)キートス/(株)システナ/(株)シーイーシー/(株)ソフトウェア・サービス/アジダス(株)/九電ビジネスソリューションズ(株)/(株)サンレイズ/NJCソフトウェア(株)/フィールドシステムズ(株)/(株)KSK九州/(株)九州共栄システムズ/日本郵便(株)/(株)IBUKI/(株)永池/(株)九州ケースデンキ/ロイヤルホールディングス(株)/(株)物語コーポレーション/九州ワーク(株)/ワイジェイカード(株)/九州ひびぜん/信用金庫/明治安田生命保険相互会社/(株)豊後企画集団/(株)アネムホールディングス/英進館(株)/(株)光進ガードシステム/(株)福創生会/日本ライフサポート(株)/(株)トラスト・テック/UTエム(株)/警視庁/臼杵市役所 など



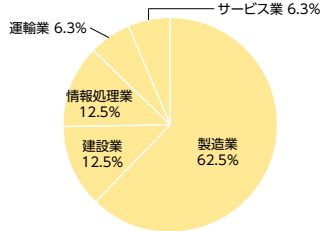
社会環境学科

タマホーム(株)/ファースト住建(株)/(株)伊藤園/新日鐵住金(株)八幡製鐵所/理研計器(株)/岡野バルブ製造(株)/(株)インフォメーション・ディベロップメント(株)丸和運輸機関/日本郵便(株)/西日本旅客鉄道(株)/九州旅客鉄道(株)/オノンド控山/横浜冷凍(株)/リックス(株)/アプラド(株)/ゼビオ(株)/(株)サンドラッグ/(株)ゼンショーホールディングス/(株)大戸屋/(株)コメリ/(株)プロンコビル/イオン九州(株)/マップパリュ九州(株)/(株)フタバ/(株)ナフコ/(株)ジョイフル/日本郵政グループ/(株)福岡銀行/(株)福岡中央銀行/(株)親和銀行/(株)レオパレス21/日本ハウスイング(株)/テップ(株)/WDB工学(株)/UTグループ(株)/大阪府警察本部/福岡県警察/大分県警察本部 など



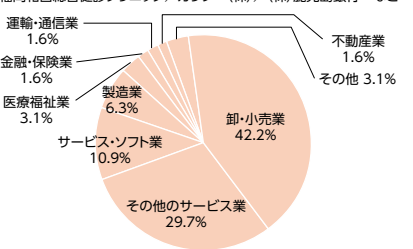
大学院

(株)前澤エンジニアリングサービス/西部電気工業(株)/シンコー(株)/リョーユーパンプグループ/古河電気工業(株)/(株)日本パーカー/イジジック広島工場/IDEC(株)/大昭和精機(株)/第一施設工業(株)/(株)西部技研/ソニー(株)/鴻海電機(株)/オムロン直方(株)/ソニーセミコンダクタマニファクチャリング(株)/(株)ジャムコ/ジャコ(株)/(株)トヨタ車体研究所/富士通(株)/大分キャノン(株)/麻生セメント(株)/(株)ID/(株)センソ情報システムズ/ユニティ(株)/(株)富士通鹿児島山イフオネット/山九(株)/九州旅客鉄道(株)/小松開発工業(株)/新日本非破壊検査(株)/WDB工学(株)/中国電建集団四川電力設計諮詢有限責任公司/南瑞集団公司(NARI)/東方出版社/福特汽车有限公司(フォードチャイナ) など



短期大学部

リックス(株)/(株)アステックペイントジャパン(株)かねやす/(株)オーキョウ/(株)シンセイ福岡/コスモ電材(株)/クボタグリサービス(株)/(株)コスモ薬局/(株)プロンコビル/(株)ジー・ティスト/(株)ドン・キホーテ/(株)古賀薬局/マップパリュ九州(株)/(株)ヨドバシカメラ/(株)グッディ/最所産産(株)/(株)富士通システムズウェアテクノロジー/ユニティ・ソフト(株)/カラビナテック/ロジー(株)/ENEOSグローバルエナジー(株)/(株)フレ・コーポレーション/(株)アイティーオー/西日本工業(株)/新日本非破壊検査(株)/(株)BBネットワークス/イオンディライト(株)/(株)トラスト・テック/WDB工学(株)/(株)ジー・エークラス/(医)博文会/(医)池友会福岡和日総合健診クリニック/カリツー(株)/(株)鹿児島銀行 など



主要進学先 平成29年3月卒業生

■大学院

- 福岡工業大学大学院博士後期課程

■大学

- 福岡工業大学大学院修士課程
- 東京工業大学工学院電気電子系電子電子コース
- 九州大学医学部医科学専攻修士課程
- 福岡教育大学大学院教育学研究科教育科学専攻
- 九州工業大学大学院生命体工学研究科人間システム工学専攻

■短期大学部

- 福岡工業大学工学部
- 福岡工業大学情報工学部
- 福岡工業大学社会環境学部
- 佐賀大学理工学部
- 宮崎大学工学部
- 鹿児島大学工学部
- 鹿児島大学法文学部
- 琉球大学工学部
- 島根大学法文学部
- 高知大学理学部

- 札幌市立大学デザイン学部
- 徳山工業高等専門学校※
- 中村学園大学流通科学部
- 久留米大学経済学部
- 九州産業大学工学部
- 九州産業大学情報科学部
- 九州産業大学経営学部
- 九州産業大学商学部第一部
- 日本文理大学経営経済学部
- 九州情報大学経営情報学部
- 久留米工業大学工学部

※高等専門学校専攻科卒業により、四年制大学卒業と同等の学位(学士)が授与されます。

■大学院

SOFT九州支部学術講演会 学生優秀講演賞
 BMFSA2015 学生奨励賞
 第10回発明・工夫作品コンテスト 学会長賞
 産業応用工学会全国大会 産業応用工学会賞
 電子情報通信学会九州支部 学術奨励賞
 ICIAE2015 Best Presentation Award
 ICEECE2015 Session Best Paper Award
 IPECE2015 Session Best Paper Award
 ICPESE2015 Excellent Oral Presentation Award
 ICIAE2016 Best Presentation Award
 ICIAE2016 Best Student Paper Award
 ICEESE2016 Best Presentation Award
 ICEEI2016 Excellent Oral Presentation Award
 ICICIC2016 Best Paper Award
 ICISIP2016 Best Student Paper Award
 安部 寛二(工学研究科 修士課程 電子情報工学専攻)
 計測自動制御学会 優秀講演賞
 今井 拓郎(工学研究科 修士課程 知能機械工学専攻)
 The 1st FIT-ME Symposium-Chemistry and Application
 of Inorganic Layered Excellent Poster Award
 大西 航助(工学研究科 修士課程 知能機械工学専攻)
 レーザー学会九州支部学生講演会 講演発表賞
 鐘ヶ江 力(工学研究科 修士課程 知能機械工学専攻)
 日本フルードパワーシステム学会 最優秀講演賞
 西田 一矢(工学研究科 修士課程 知能機械工学専攻)
 腐食防食学会 若手講演奨励賞
 吉川 滉大(工学研究科 修士課程 知能機械工学専攻)
 電気学会 九州支部長賞
 羅 鈞文(工学研究科 修士課程 電気工学専攻)
 AROB 22nd 2017 Young Author Award
 佐藤 拓広(工学研究科 修士課程 管理工学専攻)

■大学

電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
 野田 龍成(工学部 電子情報工学科)
 財団法人表面技術協会九州支部 表面技術協会 九州支部優秀学生賞
 小川 毅(工学部 生命環境科学科)
 社団法人資源・素材学会 九州支部 Outstanding Student Award, Kyushu MMJ
 益田 久弥(工学部 生命環境科学科)
 日本金属学会・日本鉄鋼協会 九州支部長賞
 鶴口 晃平(工学部 生命環境科学科)
 日本金属学会・日本鉄鋼協会 九州支部長賞
 大庭 涼也(工学部 生命環境科学科)
 日本機械学会 島山賞
 中里 悠利(工学部 知能機械工学科)

電気学会 九州支部長賞
 江口 卓弥(工学部 電気工学科)
 電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
 加藤 舜規(情報工学部 情報工学科)
 電子情報通信学会 九州支部 学生会講演会 講演奨励賞
 森部 豊(情報工学部 情報工学科)
 電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
 羽有 圭介(情報工学部 情報通信工学科)
 電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
 岩橋 拓人(情報工学部 情報システム工学科)
 電子情報通信学会 九州支部 学生会講演会 講演奨励賞
 橋本 和憲(情報工学部 情報システム工学科)
 電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
 藤崎 美夏(情報工学部 システムマネジメント学科)
 日本経営工学会 優秀学生賞
 大内 光史(情報工学部 システムマネジメント学科)

■短期大学部

電気学会 九州支部長賞
 河野 佑亮(情報メディア学科)

■卒業時成績優秀者

松永 一仁(電子情報工学科)
 鶴口 晃平(生命環境科学科)
 中里 悠利(知能機械工学科)
 後藤 雅明(知能機械工学科JABEEコース(知能機械創成コース))
 鬼塚 龍法(電気工学科)
 加藤 舜規(情報工学科)
 土屋 岳(情報通信工学科)
 羽有 圭介(情報通信工学科JABEEコース(情報通信先端工学コース))
 岩橋 拓人(情報システム工学科)
 井上 尚希(情報システム工学科JABEEコース(情報システム技術コース))
 増田 愛(システムマネジメント学科)
 源 智也(社会環境科学科)
 原 菜月(情報メディア学科)
 岸 麗花(ビジネス情報学科)

■団体表彰

平成28年度第61回九州吹奏楽コンクール 大学の部 金賞
 第64回全日本吹奏楽コンクール 大学の部 金賞
 第10回福岡県アンサンブルコンテスト 金賞
 吹奏楽団
 平成28年度九州学生リーグ I部リーグ 全勝優勝
 平成28年度全国大学ラグビー選手権大会 全国トップ12
 ラグビー部

平成28年度福岡県大学準硬式野球春季リーグ戦 準優勝
平成28年度福岡県大学準硬式野球秋季リーグ戦 3位
準硬式野球部

平成28年度北部リーグ戦 男子団体 優勝
第30回福岡県大学弓道選手権大会 男子団体 3位
平成28年度福岡地区弓道新人戦大会 男子団体 2位
第55回福岡市内学生弓道選手権大会 男子団体 準優勝
弓道部

第19回福岡県学生アイスホッケー選手権大会 準優勝
第24回パピオ杯争奪アイスホッケーサマーリーグ戦 優勝
第37回九州学生アイスホッケーリーグ戦大会 2部リーグ 全
勝優勝(1部リーグ昇格)

アイスホッケー部

第11回アクションサッカー選手権全国大会2016 全国ベスト4
アクションサッカー 4th STAGE 2016 B1 Leagueリーグ 優勝
アクションサッカー同好会

第66回九州地区大学体育大会フットサル競技 準優勝

フットサル同好会 GARZA

第16回玄武會テコンドー交流大会2016 準優勝

テコンドー部

第16回香港上海倶楽部オープン相撲選手権大会 3位

相撲同好会

第1回九州大学生麻雀選手権 団体戦 優勝

競技麻雀同好会

SECCON 2016 (SECURITY CONTEST 2016)

国際大会予選 日本チーム12位(62位/1834チーム総数)

部長 占部 峻平(情報通信工学科2年)

ネットワーク競技愛好会

平成28年度第8回福岡市環境行動奨励賞

社会環境学部ビオトープ研究会

代表 栗原 優太(社会環境学科3年)

日頃の学内外のゴミ分別活動、ISOバッグの普及、外部交流を通
じた本学学生への環境意識の啓発活動に尽力し、自ら率先して
奉仕活動を継続的に努めた。

環境活動学生組織 えこFIT(社会環境学科)

日頃の学内外の環境保全活動及び清掃美化活動、立花祭でのゴ
ミ分別ブースの設置及び回収に尽力した。福岡市などからの評
価も高い。

環境サークルオアシス部

平成28年度福岡工業大学学生自治会執行部

会長 北野 達(情報通信工学科3年)

実行局局長 矢野 匠(知能機械工学科3年)

代議員会議長 江口 耕大(情報工学科3年)

会計長 中山 憂香(情報工学科3年)

文化会会長 原 一生(電子情報工学科3年)

体育会会長 加藤 大空(情報通信工学科3年)

会計監査委員長 太田 誠二(知能機械工学科3年)

■個人表彰

第45回福岡六大学野球春季リーグ戦 個人表彰

三村 政司(知能機械工学科4年)

第45回福岡六大学野球秋季リーグ戦 個人表彰

別府 辰貴(社会環境学科3年)

染原 圭志(社会環境学科3年)

古賀 優大(社会環境学科1年)

三村 政司(知能機械工学科4年)

森口 拓哉(社会環境学科3年)

男子セブンズ(7人制ラグビー)日本代表メンバー、

アジアラグビーセブンズシリーズ2016 香港大会出場

佐竹 克基(社会環境学科2年)

ファカタヴァ ソセフォ(社会環境学科1年)

平成28年度弓道北部リーグ戦

大塚 優(電子情報工学科3年) 優勝

荒木 翔太(知能機械工学科1年) 準優勝

佐藤 翔(知能機械工学科1年) 3位

第52回九州学生弓道新人戦指宿大会 個人表彰

鬼塚 雅也(短期大学部情報メディア学科2年)

第55回福岡市内学生弓道選手権大会

大塚 優(電子情報工学科3年) 優勝

荒木 翔太(知能機械工学科1年) 3位

第19回福岡県学生アイスホッケー選手権大会 個人表彰

遠藤 紳之輔(情報システム工学科4年)

大宅 遼馬(情報システム工学科1年)

岡部 竜弥(システムマネジメント学科4年)

第24回パピオ杯争奪アイスホッケーサマーリーグ戦 個人表彰

遠藤 紳之輔(情報システム工学科4年)

大宅 遼馬(情報システム工学科1年)

第37回九州学生アイスホッケーリーグ戦大会2部リーグ 個人
表彰

遠藤 紳之輔(情報システム工学科4年)

第11回アクションサッカー選手権全国大会2016 個人表彰

戒谷 恭平(電子情報工学科4年)

アクションサッカー 4th STAGE 2016 B1 Leagueリーグ 個
人表彰

北川 雄大(生命環境科学科3年)

戒谷 恭平(電子情報工学科4年)

平成28年度福岡県大学準硬式野球春季リーグ戦 個人表彰・ベ
ストナイン

鶴田 敦也(システムマネジメント学科2年)

中垣 瞬(知能機械工学科3年)

湊 啓晃(電気工学科2年)

平成28年度福岡県大学準硬式野球秋季リーグ戦 個人表彰・ベ
ストナイン

湊 啓晃(電気工学科2年)

堺 恭祐(システムマネジメント学科1年)

第66回九州地区大学体育大会 水泳競技 女子400m自由形
優勝、女子200m自由形 3位

大澤 純加(社会環境学科3年)

第27回全九州テコンドー選手権大会

溝口 響(電子情報工学科2年)一般男子-74kg以上の部 3位

片山 大尚(知能機械工学科2年)一般男子-63kgの部 3位

第25回福岡県テコンドー選手権大会

岩並 桃佳(生命環境科学科2年)型有級(初級)一般の部 優勝
中村 霞月(生命環境科学科2年)型有級(初級)一般の部
準優勝
西村 悠(社会環境学科2年)統合フェザー級女子の部 準優勝
手島 星(情報システム工学科2年)統合フライ級女子の部
3位
溝口 響(電子情報工学科2年)統合ヘビー級男子の部 準優勝
高木 優太(情報システム工学科2年)統合フライ級男子の部
準優勝
間々田 夏菜子(社会環境学科2年)統合フライ級女子の部
3位

第16回玄武會テコンドー交流大会2016

中村 霞月(生命環境科学科2年)型U-30一般初級の部 優勝
岩並 桃佳(生命環境科学科2年)型一般中級の部 優勝
溝上 達郎(生命環境科学科4年)型一般上級の部 3位

第54回福岡県学生バドミントン新人戦大会

寺坂 俊吾(社会環境学科3年)男子シングルスS級 優勝
谷 龍孝(社会環境学科2年)男子シングルスA級 優勝

平成28年度春季ライフル・ピストル射撃競技広島大会
AP40W 3位

平成28年度ジュニアエアガン大会10mエアピストル少年女子
40発競技 優勝

平成28年度九州ライフル射撃選手権大会 AP40W 2位

平成28年度秋季ライフル&ピストル射撃競技広島大会 3位

平成28年度冬季ライフル&ピストル射撃競技広島大会 2位

平 亜結美(電子情報工学科2年)

九州ジムカーナフェスティバル2016 B-4クラス 3位

松尾 勇汰(知能機械工学科2年)

第5回サイエンス・インカレ研究発表会 国立研究開発法人科学
技術振興機構理事長賞 審査員奨励賞

研究テーマ:「拡張現実感を用いた味覚操作システムの開発～た
だ、ラーメンが食べたかった～」

中野 萌士(情報システム工学科3年)

津田 英知(情報システム工学科2年)

第5回サイエンス・インカレ研究発表会 ファイナリスト選出

情報システム工学科 FITポケットラボ

坂本 拓之(情報システム工学科4年)

吉武 柚希(情報システム工学科4年)

中野 萌士(情報システム工学科3年)

津田 英知(情報システム工学科2年)

第28回全日本ロボット相撲東海大会 全日本の部 ラジコン型
4位

龍 寛久(知能機械工学科3年)

第28回全日本ロボット相撲中国地区大会 全日本の部 自立型
4位

丸木 共一(電子情報工学科4年)

第3回九州アプリチャレンジキャラバン2016 企業賞(電翔賞)

テーマ:「使う人から作る人へ」

刀根 孝史(情報システム工学科3年)

TOEICにおける成績優秀者(TOTAL SCORE 955点)

ムハンマド・アイザット(電気工学科1年)

福岡県警東警察署長より感謝状表彰

岩井 洸司郎(社会環境学科1年)

日本機械学会九州学生会 第47回卒業研究発表講演会 優秀
講演賞

藤川 真麗恵(情報システム工学科4年)

第6回九州河川学シンポジウム 優秀賞

上野 由里代(社会環境学科2年)

2016年度日本産業技術教育学会技術教育創造の世界(大学生
版)発明工夫コンテスト

プログラム部門 学会長賞 団体表彰 江口 啓 研究室(電
子情報工学科)

研究テーマ:「手は不要!顔の動きを使ったペイントソフト」

佐喜 祐太(電子情報工学科3年)

関 明仁(電子情報工学科4年)

丸山 秀隆(電子情報工学科4年)

「ふくおかIT Workouts 2016」福岡工業大学チームたのしんぐ
うプロジェクト

新宮町情報ポータルサイト構築、Beaconを用いた観光案内ア
プリ開発

槇 俊孝(工学研究科博士後期課程2年)

高橋 和生(工学研究科情報通信工学専攻M1年)

松前 洋佑(情報通信工学科4年)

坂井 大輝(情報通信工学科4年)

山下 拓弥(情報通信工学科4年)

橋本 雅史(情報システム工学科4年)

浦田 清寛(情報システム工学科4年)

家永 鉄也(情報システム工学科4年)

新宮町観光PR動画作成プロジェクトチームSTEP

篠原 彩夏(情報工学科4年)

高田 健悟(情報工学科2年)

江下 友介(情報通信工学科4年)

佐藤 駿一(情報通信工学科4年)

野村 きらら(情報通信工学科4年)

又吉 満稀(情報通信工学科4年)

安達 智哉(情報通信工学科3年)

伊島 悠矢(情報通信工学科3年)

浦田 清寛(情報システム工学科4年)

橋本 雅史(情報システム工学科4年)

福島 早姫(システムマネジメント学科3年)

課外活動

■平成28年度クラブ・サークル加入者数

クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数
硬式野球部	111	陸上競技部	1	オールラウンドミュージック部	54
女子柔道部	7	アクションサッカー同好会	54	音楽研究部	57
ラグビー部	73	F-joy(シーズンスポーツ)愛好会	9	音響部	42
アーチェリー部	17	硬式テニス同好会	31	環境サークルオアシス部	45
合気道部	23	サイクリング同好会	24	写真部	39
アイスホッケー部	23	サッカー同好会(フランケンFC)	43	情報技術研究部	71
弓道部	28	サバイバルスポーツ同好会	52	フォークソング研究部	74
剣道部	13	少林寺拳法愛好会	7	モダンアート部	37
硬式テニス部	10	相撲愛好会	11	ロック部	44
サッカー部	23	タッチラグビー同好会	39	アカペラ同好会	21
自動車工学研究部	9	男子柔道同好会	5	アンプラグド愛好会(アコースティックギター)	13
準硬式野球部	34	ダンス同好会	42	映像愛好会	7
水泳競技部	24	トリアスロン同好会	11	演劇同好会	11
ソフトテニス部	25	軟式野球同好会	34	競技麻雀同好会	49
ソフトボール部	28	バスケットボール愛好会(PRESS)	92	国際交流サークル(FIT-ICE)同好会	91
卓球部	18	パワーリフティング同好会	7	茶道同好会	12
テコンドー部	41	ハンドボール同好会	40	サブカルチャー同好会	36
バスケットボール部	20	フットサル愛好会(ファンタジア)	45	ネットワーク競技愛好会	10
バドミントン部	39	フットサル同好会(GARZA)	28	模型愛好会	11
バレーボール部	20	吹奏楽団	61	料理・スイーツ研究愛好会	15

加入者総計1,961名

■平成28年度モノづくりセンタープロジェクトメンバー数

プロジェクト名	メンバー数
ソーラーカー	8
ロボコン	16
小型衛星	11
ロボット相撲	10
手作りアクセサリー	10
ビオトープ	5
二足歩行ロボット	22
計	82

平成28年度資格取得実績

■教員免許取得者数

免許種類	科目	取得者数
高校一種	数学	17
	理科	8
	工業	3
	情報	12
	公民	2

免許種類	科目	取得者数
中学校一種	数学	12
	理科	6
	社会	1

■資格取得実績・大学

資格名称	合格者数
第1級陸上無線技術士	18
第1級陸上無線技術士(科目合格)	4
第1級総合無線通信士	1
第1級陸上特殊無線技士	26
第3級陸上特殊無線技士	31
第3種電気主任技術者	3
第3種電気主任技術者(科目合格)	7
電気工事士一種	1
バイオ技術者認定試験(上級)	1
バイオ技術者認定試験(中級)	2
公害防止管理者	2
公害防止管理者(科目合格)	5
機械保全 機械系保全作業2級	11
機械保全 機械系保全作業3級	10
機械加工 普通旋盤作業3級	3
危険物取扱者免状(甲種)	1
危険物取扱者免状(乙種)	10
CAD利用技術者試験2級	2
LPIC(101試験)	5
LPIC(102試験)	2

資格名称	合格者数
CCNA(ICND1)	1
CCNA(ICND2)	1
基本情報技術者(FE)	28
応用情報技術者	1
情報セキュリティマネジメント	3
ITパスポート	39
Webクリエイター上級	6
色彩コーディネータ2級	1
eco検定(環境社会検定試験)	15
リテールマーケティング2級	9
Microsoft Office Specialist	431
医科医療事務検定(2級)	1
日商簿記検定2級	5
日商簿記検定3級	21
秘書検定2級	14
秘書検定3級	15

■資格取得実績・短期大学部

資格名称	合格者数
基本情報技術者	1
応用情報技術者	1
ITパスポート	4
日商PC検定 文書作成2級	1
日商PC検定 文書作成3級	3
日商PC検定 文書作成 Basic	13
日商PC検定 データ活用3級	2
日商PC検定 プレゼン資料作成3級	1
CGエンジニア・ベーシック	3
マルチメディア・ベーシック	4
建築CAD検定3級	8
日商簿記2級	2
日商簿記3級	11
全経簿記能力検定3級	32
全経簿記能力検定4級	33
秘書検定準1級	1
秘書検定2級	6
秘書検定3級	5
Microsoft Office Specialist Word	4
Microsoft Office Specialist Excel Expert	2
色彩検定3級	1
医科第三級医療事務技能検定	12
その他	3

国際交流

■国際交流協定校一覧

国名	大学名	締結年	協定内容					平成28年度交流学生数	
			教育研究 活動交流	学生交流	教育・研究者 交流	事務職員 交流	留学生 募集戦略	本学からの 派遣	協定校 学生の受入
米国	フットヒルカレッジ	1992	○	○	○	-	-	-	-
	オレゴン州立大学工学部	2002	○	○	○	○	-	-	-
	カリフォルニア州立大学イーストベイ校	2003	○	○	○	○	-	37	-
	サンノゼ州立大学	2015	○	○	○	-	-	5	-
韓国	慶星大学校	1981	○	○	○	○	-	-	3
	亜洲大学校	1990	○	○	○	○	-	-	1
	啓明大学校工学部	2009	○	○	○	-	-	-	-
中国	大連理工大学	1988	○	○	○	-	○	-	5
	南京理工大学	1993	○	○	○	○	-	10	12
	青島科技大学	2008	○	○	○	○	○	-	7
	北華大学	2008	○	○	○	○	○	-	-
タイ	キングモンクット工科大学	2008	○	○	○	○	○	14	44
	チュラロンコン大学理学部	2009	○	○	○	○	-	-	-
豪州	フェデレーション大学	2001	○	○	○	-	-	-	-
アルバニア	ティラナ工科大学	2009	○	○	○	-	-	-	-

研究活動

■外部研究資金の取得実績推移

(単位:千円)

		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
共同研究	金額	17,275	14,219	6,375	11,083	10,507	10,355	37,472
	件数	19	14	11	15	14	18	19
受託研究	金額	17,003	16,116	6,535	13,113	8,781	13,869	18,106
	件数	8	8	6	9	6	10	13
奨学寄付金	金額	7,467	3,500	5,133	500	7,949	19,175	14,426
	件数	6	5	5	1	9	20	16
科学研究費補助金	金額	45,850	43,030	60,970	53,690	71,310	74,360	92,820
	件数	25	29	40	39	41	48	53
その他外部助成金	金額	475	1,566	5,439	23,570	653	540	0
	件数	3	2	5	10	4	1	0
合計	金額	88,070	78,431	84,452	101,956	99,200	118,299	162,824
	件数	61	58	67	74	74	97	101

教育関係補助金の交付状況

■私立大学等経常費補助金の交付実績推移

(単位:千円)

区分	H22	H23	H24	H25	H26
一般補助	350,247	531,328	457,753	520,271	551,908
特別補助	382,202	99,322	94,815	96,906	137,690
合計	732,449	630,650	552,568	617,177	689,598
区分	H27	H28			
一般補助	445,929	532,698			
特別補助	168,196	160,145			
合計	614,125	692,843			

■平成28年度文部科学省補助金交付実績

(単位:千円)

文科省補助区分	事業名	交付額
大学間連携共同教育 推進事業	産学協働による主体的学修の確立 と中核的・中堅職業人の育成	4,008
	未来像を描く電気エネルギー分野 における実践的人材の育成	3,400
大学教育再生加速プログラム	テーマI「アクティブ・ラーニング」	14,000
私立大学等教育研究 活性化設備整備事業	実践型人材育成に資する高度マルチ メディアPC演習室の整備	10,724
	産業界が求める実践型人材育成の ための高度CG教育環境整備	10,724
私立学校施設整備費補助金、 私立大学等研究設備整備費 等補助金	課題解決型学修に資する学内LAN ネットワーク装置の導入	8,982
	発電デバイス評価用負荷装置	5,245
合計		57,083

附属施設

■図書館蔵書数 (平成29年5月1日現在) (単位:冊)

図書区分	蔵書数
和書	241,502
洋書	66,618
学術雑誌	1,698
AV資料	763
合計	310,581

■図書館利用者数推移 (単位:人)

利用者区分	H22	H23	H24	H25	H26
学内利用者	42,988	40,480	39,899	39,632	41,206
学外利用者	7,131	5,719	2,979	6,118	12,191
合計	50,119	46,199	42,878	45,750	53,397

利用者区分	H27	H28
学内利用者	70,846	137,662
学外利用者	29,531	34,007
合計	100,377	171,669

■情報処理センター利用者数推移 (単位:人)

H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
35,195	33,783	33,202	31,878	33,614	33,044	34,371

■平成28年度エクステンションセンター受講者数

講座名	講座数	受講者数
資格取得支援講座	61	885
情報関連講座	16	40
文化教養講座	192	1,675
FIT講座	4	91
合計	273	2,691

■平成28年度モノづくりセンター利用者数

講座名	利用者数
学生プロジェクト	5,746
研究利用	485
一般利用	4,155
合計	10,386

校地・校舎

■校地・校舎概要

建物名	主な設備、用途	延床面積(m ²)	建築年
A棟	クリーンルーム、学生ホール、ラーニングコーナー、売店、講義室27、演習室14、実験室16、研究室79、卒研室34	18,040	平成13年
B棟	情報基盤センター、レストラン、コンビニ、保健室、カウンセリング室、講義室19、演習室11、実験室11、研究室44、卒研室22	18,842	平成16年
C棟	地下ホール(収容人数300人)、学生ホール、レストラン、売店、書店、講義室8、実験室6、研究室27、卒研室23	10,303	平成3年
D棟	工作センター、講義室13、実験室11、研究室25、卒研室23	8,504	平成16年
E棟	学生サポートセンター、フレッシュマンスクール、アクティブラーニングエリア、研究所、オープンラボ	6,884	平成28年
α棟	モノづくりセンター、グローバルスチューデントラウンジ、ラーニングスペース、多目的ホール(収容人数200人)	1,750	平成11年
本部棟	FIT Link(図書館)、エクステンションセンター、次世代マイクロ/ナノ金型開発センター、音とモノづくりの歴史資料館、事務局	12,735	昭和61年
FITアリーナ	シンフォニーホール(収容人数2,400人)、運動施設	5,470	平成12年
FITホール	多目的ホール(収容員数1,000人)、会議室	3,612	平成23年
坦心寮	男子寮(部屋数79、収容人数308人)	6,556	平成15年
コスモス寮	女子寮(部屋数107、収容人数141人)	3,833	平成5年
国際交流会館	留学生寮(部屋数27、収容人数50人)	1,102	平成4年
和白グラウンド	高校部活動用地他	32,297	昭和37年
新宮総合グラウンド	野球場、ラグビー場、アーチェリー場、他運動施設	40,655	昭和62年
塩浜総合グラウンド	野球場、室内練習場、ソフトボール場	38,188	平成24年
FITアリーナ WESTコート	スポーツコート、相撲場	2,308	平成27年
FITセミナーハウス	課外研修・宿泊施設	1,310	平成24年

財務状況

■資金収支計算書 (平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

収入の部 (単位:千円)	
科 目	決 算 額
学生生徒等納付金収入	6,268,461
手数料収入	142,386
寄付金収入	48,761
補助金収入	1,392,862
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	201,585
受取利息・配当金収入	123,708
雑収入	274,962
前受金収入	2,145,409
その他の収入	817,398
資金収入調整勘定	△ 2,154,108
前年度繰越支払資金	2,179,968
収入の部合計	11,441,393

支出の部

科 目	決 算 額
人件費支出	4,949,143
教育研究経費支出	1,748,885
管理経費支出	689,266
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
施設関係支出	1,235,980
設備関係支出	586,363
資産運用支出	0
その他の支出	362,197
資金支出調整勘定	△ 211,636
次年度繰越支払資金	2,081,195
支出の部合計	11,441,393

■貸借対照表 (平成29年3月31日現在)

資産の部 (単位:千円)	
科 目	平成28年度末残高
固定資産	32,387,785
有形固定資産	23,467,350
土地	3,487,651
建物	14,541,676
構築物	1,362,306
教育研究用機器備品	2,537,789
その他の機器備品	88,512
図書	1,136,391
車両	57,616
建設仮勘定	255,409
特定資産	6,430,000
第3号基本金引当特定資産	1,500,000
退職給与引当特定資産	1,600,000
施設拡充引当特定資産	2,830,000
教育設備引当特定資産	500,000
その他の固定資産	2,490,435
有価証券	2,409,245
預託金、施設利用権など	81,189
流動資産	2,377,742
現金預金	2,081,195
未収入金	197,552
修学旅行預け金、前払金など	98,995
資産の部合計	34,765,527

■事業活動収支計算書 (平成28年4月1日から平成29年3月31日まで) (単位:千円)

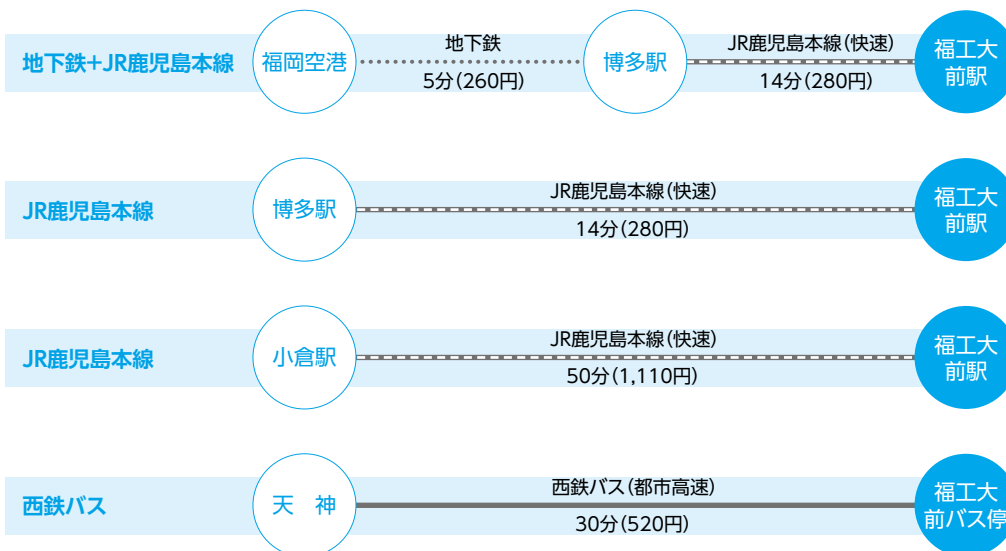
教育活動収支		科 目	決 算 額
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	6,268,461
		手数料	142,386
		寄付金	40,507
		経常費等補助金	1,352,337
		付随事業収入	201,585
	支出	雑収入	214,348
		教育活動収入計	8,219,623
		人件費	4,903,350
		教育研究経費	2,659,589
		管理経費	756,015
		徴収不能額等	0
		教育活動支出計	8,318,953
		教育活動収支差額	△ 99,330
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	120,656
		教育活動外収入計	120,656
	支出	借入金等利息	0
		教育活動外支出計	0
		教育活動収支差額	120,656
		経常収支差額	21,326
特別収支	収入	資産売却差額	0
		現物寄付、施設・設備補助金等	99,625
		特別収入計	99,625
	支出	資産処分差額	985
		特別支出計	985
		特別収支差額	98,640
		基本金組入前当年度収支差額	119,966
		基本金組入額合計	△ 1,736,934
		当年度収支差額	△ 1,616,968
		前年度繰越収支差額	△ 6,039,946
		基本金取崩額	0
		翌年度繰越収支差額	△ 7,656,915
(参考)			
		事業活動収入計	8,439,904
		事業活動支出計	8,319,938

負債の部 (単位:千円)

科 目	平成28年度末残高
固定負債	1,634,410
長期未払金	15,404
退職給与引当金	1,619,007
流動負債	2,623,005
未払金	180,172
前受金	2,145,409
預り金	268,818
仮受金	28,606
負債の部合計	4,257,415

純資産の部 (単位:千円)

科 目	平成28年度末残高
基本金	38,165,027
第1号基本金	36,161,027
第3号基本金	1,500,000
第4号基本金	504,000
繰越収支差額	△ 7,656,915
翌年度繰越収支差額	△ 7,656,915
純資産の部合計	30,508,113
負債及び純資産の部合計	34,765,527
減価償却額の累計額の合計額	12,648,445



※乗用車の場合…国道3号線から国道495号線へ進み和白方面へ

福岡工業大学

平成 28 年度

教育・研究活動報告書

取組成果のご報告

編集／福岡工業大学 IRプロジェクト

編集協力・印刷／久野印刷(株)

〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町3番1号 TEL：092-262-5726 FAX：092-262-5720

発行／平成29年7月

福岡工業大学

〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30番1号 TEL：092-606-0619 FAX：092-606-8923



For all the students

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

工学部

電子情報工学科
生命環境科学科
知能機械工学科
電気工学科

情報工学部

情報工学科
情報通信工学科
情報システム工学科
システムマネジメント学科

社会環境学部

社会環境学科(文系)

大学院

工学研究科
社会環境学研究科

福岡工業大学短期大学部

情報メディア学科
ビジネス情報学科

福岡工業大学附属城東高等学校

普通科
電気科
電子情報科